

チャレンジ ツベツ

CHALLENGE TSUBETSU

津別町第6次総合計画

令和3年度 進捗評価シート

(令和2年度～令和11年度)

令和4年7月

津別町

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～
 施策 1-1 子育て支援の充実「子育てしやすく子どもがすくすく育つ 子育て世代に選ばれるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支 援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎津別の子どもたちが町外へと巣立っ てからも、「津別の子育て環境の良 さ」を思い返し、「子育てをする場」と して再び津別に戻ってくるまちとなっ ています。</p> <p>◎子育て世代が住みたいと思う環境 (働く場・住居・生活環境)が整って おり、「子育てする場・暮らしの場」と して選ばれるまちとなっています。</p> <p>◎町民が子育てのしやすさを実感し、 さらには町外にも発信され移住者 が増加しています。</p> <p>◎小さな子どもから中高校生まで、子 ども一人ひとりが気軽に安心して過 せる居場所があります。</p>	<p>[1-1-1] 子育て情 報の充実と「子育 てしやすいまち」と しての発信強化</p>	<p>保健福祉 課</p>	<p>・子育て情報の発信:令和2年度から「つべびい」母子手帳・子育て 支援アプリを導入。母の健康記録、子の成長記録、予防接種管理 などの母子手帳機能の他、地域の子育て情報の発信を行った。 R4.3月末現在、68件のユーザー登録(前年度比17件増)。地域の 子育て情報は、R4年度19件発信。 ・子ども子育て支援会議を子育て世帯のニーズの把握・共有、課題 整理の場として捉えており、令和3年度は1回会議を開催した。(子 育て世代包括支援センターの設置、新生児誕生祝品に関する意見 交換)</p>	<p>・母子手帳交付時、赤ちゃん訪 問時に個別周知したことで前 年よりアプリ登録者が増えて いるが、新型コロナの影響もあ り、前年度に引き続き広くPRす ることが困難だった。 ・上記の理由で、まだアプリを 登録していない方も多くおり、 直接子育て情報を届けること ができていない方も多くいる。</p>	<p>・必要な情報が子育て世代に 直接届くよう、アプリの登録者 数の増が必要と考えるため、 引き続き個別勧奨の継続と、 広報・HP等の媒体の活用、新 型コロナの感染状況に配慮し ながら可能な場面でのPR活動 を行う。 ・役場だけでなく、町内の関係 機関の協力を得て、子育て情 報を掲載したパンフレット等 の設置等を進め、情報発信を強 化する。</p>	<p>【評価】</p> <p>・新生児誕生祝品については 衣服の品質は良いと思うが服 ではない方が良い。置戸町の オケクラフトを使用したお食 い初めセットは他市町からも評 判が良い。</p> <p>【提案】</p> <p>・すてきな良い取り組みだと思 います。 この書き方だと全体がみえて こないのが、対象者何人中何 人が登録で%で表してくれると わかりやすいと思います。 また他の部署でも、災害の LINEやマチイロなどアプリがあ るので、連携してチラシなど一 緒に告知できる仕組みがあれば、 単独PRよりも効率的で良 いかと思います。 プロジェクトチームなど作って、 課をまたいで関係機関含め て、予算つけて様々なアプリな どの取り組みをの普及を%な ど数字で上げられれば楽しい かもですね。</p> <p>・「つべびい」いい取り組みだ と思います。子育て世代の移住 希望者にもPRしていければ と思います。</p> <p>・「タウンニュースつべつ」を もっと活用して、情報発信す るべきかと・対象者以外も耳に することで認知度は上がると 思います。正直、知らなかった ことが多く活用にお手伝いでき ていない状況でした。</p>

[1-1-2] 子育て世代のニーズにあった支援の充実	保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代包括支援センターの運営体制の構築(マニュアル作成等) ・乳児健診(3~4、9~10か月児)を医療機関へ委託し個別健診とする事で、以前よりも適切な時期に受けられる体制づくりをした。R3年度の受診率:3~4か月、9~10か月共に100%。 ・乳幼児相談会事業を開始した。生後2か月~就学前までの乳幼児を育てる保護者を対象に毎月1回実施。R3年度は計8回実施し、合計70組の親子が相談に来た。 ・育児学級に父親参加の回を設けたが、対象者の少なさやコロナ等により開催できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代包括支援センターを住民へどのように周知していくか。 ・プレママ、育児学級等の教室開催の難しさ(出生数の減少による) 	<ul style="list-style-type: none"> ・産後ケアの利用区分の拡充(医療機関へ委託し、短期入所型・通所ロング型を新たに開始する) ・3歳児健診にて、弱視の発見率を高め早期治療開始する事を目的に屈折検査機器を導入する。 	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出生数減少により事業の開催が減っているが、子どもや両親に対する様々な「~学級」があり助かっている。
[1-1-3] すべての子どもの安全・安心な居場所づくりの推進	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館事業・放課後児童クラブの充実 新型コロナウイルス感染症により、児童館の一般開放はせずに児童クラブ登録とバス待ち児童のみの受け入れでの運営だったが、感染症対策を徹底し安心安全な居場所作りができた。 →児童クラブ38名、準児童クラブ56名、バス待機児童9名、33事業を展開(アソビバ事業との連携も含む) ・アソビバ!つべつの充実 感染症対策として事業サポート体制を限定し、スポーツ推進委員等と連携する事業を増やし対応することができた。(農業・林業・歴史・運動教室など) →年間23事業実施、登録者52名、延参加人数470名 	<ul style="list-style-type: none"> ・登録児童が多いことから密集を避けた取り組みに苦慮している 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館運営については、関係機関と協議し、児童館のあり方を検討する。 ・ICTを活用した事業展開 	<p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充実した環境を整えてくれていると思います。児童館はipadやcrome bookの導入はしていますか? 英語アプリや導入事例など先進地もあるようなので、参考にして導入してみてもはどうだろうか? 民間で学童保育がしやすい補助金などを考えてみるはどうだろうか。 ・躯体の老朽化や既存設備の更新など、現代に合わせた児童館の在り方を検討する時期がきているのではないか。
[1-1-4] 若い世代が子育てできる《住む・働く・生活》の環境づくりの推進	建設課(住宅、道路、インフラ)	<ul style="list-style-type: none"> ・歩道修繕計画を令和4年2月に策定し、令和4年度から計画的に歩道を修繕していく。 ・子育て世帯の住宅取得支援のために、ふるさと定住促進奨励金を補助した。新築分 5件630万円、中古住宅を購入し、また改修した世帯への補助 中古3件90万円、改修1件50万円。 		<ul style="list-style-type: none"> ・安全に歩行できるだけでなく、賑わいの創出もできるような歩行空間の整備。 ・住宅取得支援の補助を継続。 	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課をまたいで情報共有して、連携を強めてほしい。 <p>【支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、新築中古含め子供の進学タイミングで家を検討される方が多いです。特に旭町・豊永エリア。このエリアの物件掘り起こしを更に進めていければと思っています。 <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の通行頻度が多い病院付近、ベビーカーを使用する子育て世代が多く通行する町なか中心部などから優先して歩道修繕されると良いのではないか。

	住民企画課 (買い物環境)	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物等利便性確保の観点から、町内関連団体の推薦者からなる推進協議会(一般公開)や、議会の特別委員会、全員協議会において、中心市街地の整備(買い物環境整備、交通拠点整備、賑わい創出)について議論を行なった。今年度は図書館を含むコミュニティ棟整備の関係が主となった。 →市街地総合再生基本計画推進協議会(令和3年度 8回開催) →まちなか再生事業調査特別委員会(令和3年度 8回開催) →全員協議会(令和3年度 4回開催)※議題該当回のみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的かつ波及的な経済効果が得られる事業としていくため、さまざまな条件(民間事業者との連携、補助事業の活用、人の集まる仕掛け作り等)を整理していく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、市街地総合再生基本計画推進協議会と、議会全員協議会で合意形成を図りながら、事業を進めていく。 	
	総務課 (公共施設)	<ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉センターが開設され、定例的に乳幼児相談会や1歳半・3歳児健診を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健診ホールのみでは手狭な時があり、中ホール等も活用しながら実施している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健康福祉センターを拠点として、子育てに関する事業を充実していく。 	
	産業振興課 (働く場創出)	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模事業者若者雇用促進助成金事業の継続実施。 →R3新規助成:2事業者3名人(年間4事業者6人) ・UIJターン新規就業支援事業の継続実施と町内企業への法人登録の推進。 →R3移住支援金支給:単身2名 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者と求職者、それぞれが求める仕事のマッチング 	<ul style="list-style-type: none"> ・R4より、小規模事業者若者雇用促進助成金事業の要件緩和。 ・R4より、UIJ新規就業支援事業の要件拡大。 ・小規模事業者若者雇用促進がR4までの時限のため、継続検討。 	
[1-1-5] 保育サービスの充実	保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、町内で就学前児童を受け入れる事業所は認定こども園1か所だが、多様な保育ニーズに対応できるよう、令和3年度においても延長保育、一時保育事業などの事業を継続実施した。(延長保育利用児童30名(延べ267名)、一時保育利用児童18名(延べ271名)) ・令和元年度10月から始まった「教育・保育の無償化」制度の制定に伴い、子育てのための施設等利用給付事業(一時預かり保育の無償化)を引き続き実施した。(令和3年度事業利用児童5名(延べ497名)) ・令和3年度末時点で、待機児童はいない。 ・人材確保を目的として、学生を対象に令和元年度に実施した「まるっと!ふくし体験(介護・保育)inつべつ」は、新型コロナの影響で開催できなかったが、町内介護・保育事業所のPR動画「The First Tsubetsu」を作成し、YouTubeにて配信した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の制度が複雑なため、特に広域での利用の場合などは制度の説明に苦慮する場面がある。 ・保育人材の確保に苦慮しており、今後保育ニーズに対応したサービス提供が困難となる可能性がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・保育サービスの利用手続きの説明資料を随時見直し、申請手続きで簡素化できるものは簡素化し、保育サービスが利用しやすい環境を整える。 ・認定こども園の人材確保における課題を行政と共有し、必要に応じて、人材確保や人材育成について対策を講じる。 	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「The First Tsubetsu」は町内事業者を知るきっかけとして(スタッフの雰囲気も伝わってくる感じも良かったです)、就活だけでなく多くの人にみてもらいたいと思いました。 <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定こども園の人材不足への課題について、必ずしも有資格者でなければいけないのだろうか。

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～						
施策 1-2 学校教育の推進「夢や希望を持って未来を切り拓く子どもを育む『津別ならではの』学校教育の推進」						
10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支 援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<ul style="list-style-type: none"> ◎健やかで豊かな人間性と多様性・国際性を育む教育が実践されています。 ◎子ども一人ひとりに応じた、未来を切り拓く力と将来に向けた選択肢を与えられる教育が実践されています。 ◎小中一貫教育化による“津別ならではの”体系的で特色ある授業が実践されています。 ◎先進的で新しい学びの教育を受けられるまちとなっています。 ◎地域全体で子どもを育てるまちとなり、地域の魅力を発信できる人材、まちづくりに参画する人材が育っています。 ◎地元食材を使った安全で美味しい学校給食が継続的に提供されています。 	<p>[1-2-1] 特色のある学校づくり「食育・木育」と「交流」のさらなる充実</p>	生涯学習課	<p>【食育】食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に着けることができるようになることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オール津別産給食～例年11月頃にオール津別産給食を3回(精米・麺・パンの主食で各1回)実施。子ども達に地元の食材を使った給食を通して、少しでもふるさと津別のことに関心をもってもらい、郷土への愛着や感謝の気持ちを育むことを目的に実施。 ・地元食材を使った給食の提供～普段の給食に可能な限り地元食材を使い、地産地消の意義や大切さを知ってもらうことを目的に実施。 ・食育授業の実施～平成21年4月から栄養教諭が配置されたことから、本町においても「食に関する知識」「食を選択する力」「望ましい食習慣」を身につかせ、健全な食生活を実践することができるよう津別小学校で食育の授業を行い、食育の推進を図っている。各学年ごとにテーマを決めて実施。 <p>【木育】木の町に生まれ育った子どもたちが、津別の基幹産業である林業等への理解を深めながら将来を担う人材を育成するために、小学校3・5年生、中学1年生の3学年で講師を招へいし、森で木に触れる体験や木工製作を実施。</p>	<p>【食育】コロナ禍の授業の中で、生産者の思いを聞くなどの場も設けてみたいと考えているが、取り組めていない。</p> <p>【木育】講師が高齢化してきているので、次の講師選定を現講師と検討中。</p>	<p>【食育】今後授業の中で、生産者の思いを聞くなどの場も設けてみたい。</p> <p>食育・木育ともに学校運営協議会を活用し、授業の見える化を図っていく。</p>	<p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素晴らしい取り組みだと思います。これにICTなど絡めて、気づいたことをグループで掘り下げるような授業を設けても良いかもしれません。 ・PBLで土壌を実際にしらべるとか、肥料の成分を考えると、木製の製品はどんな需要があるかなど中学生あたりは製品を考えたり、既存の流通を調べたり、マーケティング戦略をするのも楽しいかもしれません。 ・中学生が考える津別の木工製品の売り方みたいな。 <p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食育、木育とてもいい取り組みだと思います。この項目ではないかと思いますが、大人も知りたいです。 ・食育の取り組みは素晴らしいと思います。頑張ってください。難しい問題ですが、講師の方の年齢は若い方が子供は親しみやすいと思います。 ・安心、安全な給食を提供されていることや、ふるさとへ関心を持たせる事業は良いことだと思います。
				<p>[1-2-2] 地域学(ふるさと教育)の充実《全学齢一貫した取組の実践》</p>	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・町教育委員会で作成し、小学校3～4年生で使用する「社会科副読本」を使用し、津別の歴史や産業を知る授業の実施 ・津別峠やノンノの森等の津別の自然を体験する授業の実施。 ・町の産業を直接見て知るため、町内の工場等の見学授業の実施。

[1-2-3] コミュニティ・スクールの実践と体験型教育の充実	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会(コミュニティ・スクール)がR3.3に発足し、原田コーディネーターが小中学校の課外活動の窓口を担うことで、相手先との交渉がスムーズに進むようになっているだけでなく、課外授業の校内打合にもコーディネーターが参加し、外からの意見も取り入れ授業を構築している。 ・体験型授業としては、ふるさと教育と通じるものがあるが、津別峠やノノの森等の津別の自然を体験する授業の実施。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校の課題等を出してもらいながら、学校運営協議会委員と共に開かれた学校を目指していく。 	<p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動会や文化祭など年々寂しくなっていく事になるので、幼稚園や小中も含めて、昔の本岐の様にコミュニティで連携するものを目指してほしい。
[1-2-4] 先進的なICT、教育手法等の導入推進及び学校現場支援	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省のGIGAスクール構想補助金を活用し、一人一台端末や学校のLAN環境を整備した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・端末を使用した授業の仕方、使用方法や遠隔授業時のルール作成等。 	<ul style="list-style-type: none"> ・使用方法や遠隔授業時のルールを作成し、端末を使用した授業を実施していく。 	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT進んでいるようで何よりです。どうしても学力差はつくので、ICTの強みを生かして、出来る人はどんどん伸ばす教育にしてほしい、出来ない人も拾えるように、授業がつまらないで終わる、わからないで終わる、そんな子供の時間を奪うような教育をどんどん変えていってほしい。 ・端末の積極的活用を主とした取り組みが必要と感ずります。他の地域では、教職員が苦手の理由で使用が少ないと耳にします。少数校の利点を生かした活用を期待しています。 ・ICTや先進的な教育手法については子供よりも親がついていけるのだろうか。
[1-2-5] 多様性を認め合うための体制整備(特別支援教育のさらなる充実と理解度向上)	生涯学習課	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育を充実させるため、臨時教員を1名、学習補助員を小学校8名、中学校に1名の計9名を配置した。 ・特別支援連携協議会で広木先生の講演会・事例検討会を予定していたが、コロナ禍で中止とした。しかし、広木先生の紹介で藤女子大学の庄井先生を紹介いただき、特別支援児童の相談に乗ってもらっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でもできる仕事ではないことから、人員探しに苦慮している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な人員配置を適切に行っていく。 ・今年度は、講師を招いての講演会・事例検討会の実施を目指す。 	<p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供のころから一緒にクラス替えもないので、人間関係が一旦破綻すると戻れなくなったり、リセット出来ないのが苦しくなる可能性が否めない。また、同じ人間関係ですごすので多様性がない。復学の授業や、他の町も同じような状況ではないかと思うので、交流授業などがあっても良いと思います。

	<p>[1-2-6] 図書に親しみ、読書好きを増やし、好奇心を刺激する教育の実践</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症対策を講じながら各事業を展開することができた。(ブックスタート、移動図書、読書チャレンジ、図書室まつり等) →11事業、図書室だより毎月発行、小中学校巡回毎週2回</p>	<p>・感染症対策を講じながら参加者同士の交流を図ることに苦慮した。</p>	<p>・本に触れる機会をより多くの町民に広げ、親んでもらえるよう、各団体と協力連携を強める。</p>	<p>【評価】 ・いつも親切に貸し出ししてくれています。ありがとうございます。 図書館のメリット、本を取り寄せてくれたりなどあまり知られていないので、知られると活用する人もいそうな気がします。 ・新しい図書館の建設後は図書館司書の活躍にいつそう期待したい。</p>
--	--	--------------	---	--	--	---

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～

施策 1-3 生涯学習・スポーツの推進「いきいきと学び健康的で心豊かな人生を送るための生涯学習・スポーツの推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価			外部評価 挑戦に対する評価、激励、支 援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	
<p>◎誰もが、生涯にわたりいきいきと学 び、活動しながら、暮らしていける環 境が整っています。</p> <p>◎年代に応じた多様なスポーツ機会が 確保され、年間を通じたスポーツ、文 化事業(夢を与える事業)が展開され ています。</p> <p>◎町民ニーズに応じた多彩な生涯学 習、社会教育メニューが充実していま す。また、町外からの来訪者に対しても 提供され、交流人口・関係人口の拡大、 外貨獲得、移住促進に寄与して います。</p> <p>◎世代間交流、異年齢交流が活発に 行われています。</p>	[1-3-1] 生涯ス ポーツと健康づくり の推進	生涯学 習課	<p>・新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら工夫し、対策がとれるものは実施できた。保健福祉課との連携事業も、実施してから運動の継続が図られ、人数制限を設けて開設していたトレーニングルームで運動する方も定着してきた。「総合型クラブかるっちゃつべつ」事業との連携し、健康維持につなげることができた。 →ゴールドスポーツ教室全24回実施、トレーニングルーム教室全14回実施等</p>	<p>・コロナ禍で自宅に引きこもりがち生活となり、体力や筋力の低下、肥満などが懸念されていることから、運動機会の創出のための継続した事業展開が必要。</p>	<p>・ウォーキングマップ整備に向けて高校生ボランティアサークルひまわりが中心となって「みどころマップ夏編」を作成する。</p>	<p>【評価】 ・高校生面白い取り組みですね！</p> <p>・継続的な健康維持やスポーツ推進を図るために、正月やGWなどの連休の際にトレーニングルームも長期休館になってしまうことは避けてほしい。</p> <p>【支援】 ・「ウォーキングマップ・見どころマップ夏編」完成しデータでいただけるのなら、移住HPでも掲載したいですし、観光客にも配布したいです。</p>
	[1-3-2] ニーズに 応じた多様な社会 教育事業の推進	生涯学 習課	<p>・新型コロナウイルス感染症防止を講じながら工夫し、対策がとれるものは実施できた。コロナ禍だからこそ集う・体験する・学ぶことの大切さを感じられる時間となり、仲間に会える喜びや会話の楽しさなどともに学びあえる仲間の実感できる機会となり、欲求やストレスの解消につながった。年代を超えたつながりの創出を目指した。 →高齢者大学(学生52名、16講座、延べ参加者数519名)、アソビバ！チミケップ湖カヌー体験(参加者33名)、もちつき大会(参加者35名)を実施。社会教育講座では、池上彰氏を講師に「コロナの時代からその先へ」を実施(参加者132名)、体験型二胡コンサート(講師：福本ゆめ氏、参加者31名)等</p>	<p>・新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの事業実施の工夫。</p>	<p>・日常生活の中で多様な学びを提供し、新たなコミュニティと生きがいの場の構築。</p>	<p>【評価】 ・いつも面白い試みをしていただいていると思います！</p> <p>・池上彰氏の講師選択はとても良かったのでは。</p>
	[1-3-3] 図書に 親しみ、読書好き を増やし、好奇心 を刺激する生涯教 育の実践	生涯学 習課	<p>・新型コロナウイルス感染対策を講じながら工夫し、対策がとれるものは実施できた。小中学校教員との関係性を築くことにより、読書チャレンジや読書ノートなど町事業への取り組みにも理解と協力を得ることができた。</p>	<p>・コロナ感染症防止対策の観点から、ソーシャルディスタンスをとると、十分なスペースが確保できない。</p>	<p>・図書館建設に向けて、資料・情報収集に努める。(郷土資料など)</p>	<p>【評価】 ・郷土資料の充実はとても重要なことだと思います。観光客で津別の歴史を知りたいという方もいました。新図書館楽しみです。</p> <p>【提案】 ・広報の温故知新やチャレンジつべつの人物図鑑みたく、「この人の一冊的」なものも面白いかもしれない、人が勤める本や心に残った本って読みたくなるかも？</p>

<p>[1-3-4] 若者の拠点整備(たまり場、しゃべり場)</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・「津別町青年活動プロジェクトand」の活動は、メンバー20名で定例会8回、主催イベントの開催(出張サンタ)、広報活動、他団体のイベントへの協力2回を実施したが、コロナ禍で思うように活動できなかったことから、拠点整備に向けての検討は進んでいない。</p>	<p>・コロナ禍で活発な交流ができないことから、たまり場・しゃべり場集うの場の創出の検討ができない。</p>	<p>・活動PRの強化、町内外における青年同士の交流強化</p>	<p>【評価】 ・難しいですね、頑張ってくださいよ～。 ・若者の場づくり重要だと思います。やらされてる感ではなく、自分たちの楽しみ(企て)としての場だと良いと思います。率直にどんな場がいいのか当事者の若者の意見がききたいです。またどの取り組みもそうですが、引っ張っていく人の重要性を感じますので、リーダー育成のサポート体制があるといいのかなと感じます。 ・andの活動については新規加入者が少なく事業の継続や新しい展開が難しいという声から内部からも出ているようであり、今一度在り方を検討する時期がきているように思う。</p>
------------------------------------	--------------	--	--	----------------------------------	---

1 教育・子育て「つべつ・人・未来づくり」～人と地域の中で豊かに学びあい未来の人材を育むまち～

施策 1-4 まちづくり教育の推進「まちづくり・地域づくりに参画する地域人材を育成する教育の推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支 援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎まちづくり活動を活発に行う人(活動人口)の比率が高まり、まちづくりに自主的に楽しんで参加する人が増えています。横の連携が強化されています。</p> <p>◎異世代間の交流が活発に行われています。</p> <p>◎まちづくりを応援、協力、連携を促進する気運がより醸成されています。</p> <p>◎まちづくり活動を担うメンバーの新陳代謝が進んでいます。</p> <p>◎胸を張って「津別を自慢」できる大人が増え、その言動を子どもが見聞して伝承されています。</p> <p>◎「ウエルカムつべつ」の土壤が醸成され、多くの人々が来町し、出会いが繰り返される町となっています(関係人口増加)。</p>	<p>[1-4-1] 「いいね」プロジェクト・「笑顔」プロジェクト・「応援し合う」プロジェクト</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>・町内小中学校において、「あいさつをしっかりとできる」、「他への思いやりの心を育む」等に取り組んだ。また、中学校では、生徒会活動の中の、「目指す生徒目標」4つの「あ」の実行の中で、「あいさつ・・・元気なあいさつ」が掲げられ、生徒自らが取り組みと振り返りを行っている。</p>		<p>・今後も、「あいさつ」、「他への思いやりの心を育む」等に取り組みを進めていく。</p>	<p>【評価】</p> <p>・津別に来られた多くの方に、子供たちのあいさつにびっくりした(いい意味で)という話をききます。津別のイメージアップにもつながっていて素敵なことだと思います。</p> <p>・津別の子どもたちは挨拶ができる子が多いように感じる。部活動の中でも積極的に挨拶の取り組みを継続してほしい。</p>
	<p>[1-4-2] 多世代交流、異業種間交流の促進</p>	<p>住民企画課</p>	<p>・広報番組「タウンニュースつべつ」を通じて、まちづくりの活動を発信することで、応援する風土、津別を誇れる風土を醸成している。 →計13回放送、YouTube視聴回数16,500回(令和3年度)</p>	<p>・コロナ禍での3密回避の観点から、多世代交流のハードルが非常に高くなっている。</p>	<p>・放送を通じて、より具体的な形として、応援し、認め合う風土、文化を作っていく。</p>	<p>【評価】</p> <p>・「タウンニュースつべつ」は素晴らしい事業だと感じています。町民にも定着しているのも、他のプロジェクトにもある、情報発信の問題を継続的に取り上げて、何度も放送すべきと感じます。表現方法を変えて発信する事で、いずれ伝わるものもあると思います。</p>
			<p>・道東エリアリノベーションプロジェクトのパイロット事業として立ち上げた起業支援型コワーキングスペース、地域融合型ゲストハウスにおいて、多世代交流、異業種交流が図られた。 →地域融合型ゲストハウス 延べ宿泊者数241名、多世代・異業種交流イベント22回(令和3年度)</p>		<p>・オンラインでの交流を織り交ぜながらコロナ対策を徹底した上で対面での交流の企画も実施していく。</p>	<p>【評価】</p> <p>・もうある程度津別はグループが出来上がっていますし、交流促進は難しいのが現実だと思います。</p>

		<p>「起業支援空家バンク」の企画・運営（番組発信がきっかけでまちづくり団体発足 2団体（令和2年度））</p> <p>・10月に空家バンクに登録されている本町の空き家において、道東エリアリノベーションスピンオフ企画として空き家1件の丸ごとガレージセールを実施し、空き家という共通点で多世代、異業種の交流が生まれるきっかけを生み出した。 →参加者延べ約100名（令和3年度）</p>			<p>たに趣味とかでの繋がりは結構あるようなので、野球やサバイバルゲームとか釣りとゴルフとかそうしたものの間口を広げられたらと思ったりします。</p> <p>・津別にはお店が少ない、遊びがないなどの話をききますが、自分たちでできる規模からのイベントや集う機会（場）をつくることで、軽減できると考えています。まるごと一軒ガレージセールも期間限定の雑貨屋ができた感覚で楽しんでいただけました。そして、様々な方と知り合うきっかけになりました。みんなの楽しみをかなえる場づくり、まだまだ、やれることがあると思います。</p> <p>【提案】 ・空家の利活用について町民の関心は高まってきていると思うが、町としての支持体制や補助金等の施策がより拡充されると尚良いのでは。</p>
[1-4-3] 交流・発信による人材育成	住民企画課	<p>・広報番組「タウンニュースつべつ」を通じて、様々なまちづくりの活動にスポットライトを当てることで、まちづくり活動参画へのモチベーションを上げ、まちづくり人材の拡大を図った。 →計13回放送、YouTube視聴回数16,500回（令和3年度） →住民満足度調査「行政の情報発信等」の「満足」、「おおむね満足」の割合73.3%（令和3年度）</p>	・特にまちづくりへ参画する若者の必要性が増しているため、連携を図る必要がある。	・まちづくりに参画し頑張っている人材や団体の成果を媒体を使って、町民に広く発信することで人材の拡大を図る。	<p>【評価】 ・20代30代の方がもっとまちづくりに参画できる体制づくりに興味があります。この層の方が何を思っているのか話をききたいです。</p> <p>・大変素晴らしいと感じています。</p> <p>・課題にもあるが町づくりに参画する若者が少ない。仕事や趣味以外で、町づくりに関心をもつ20～30代が圧倒的に少ないのでは。（役場職員含め）</p>
[1-4-4] 住民提案型のまちづくり方策・条例等の検討	住民企画課	<p>【R6年度から】 ・未着手</p>	—	—	<p>【評価】 ・今までの条例で古くなって邪魔になって出来ないものとか、必要ないもの、あると便利になりそうなものなどあるのでしょうか</p>
[1-4-5] 「津別町まちおこし大学 ver.2.0」の実施	住民企画課	<p>【R4年度から】 ・北海道大学学生サークルHALCCと津別高校生との高大連携事業として、「調べる力」「考える力」「伝える力」を身に付けることを目標として、津別の未来を考えた高校生総合計画を作成。大学生を通じてまちづくり人材の育成を図った。 →高校生による提案15件（令和3年度）</p>	・すでに、自主的にまちづくりに関する研修等を実施している個人・団体もあるので、重複する取り組みを行うべきではない。	・何か新たなものを作りだすのではなく、町内ですでに実施されている研修や人材育成の洗い出しと、それらをつなげたカリキュラム化を行う方向で検討を進める。	<p>【評価】 ・出来ると面白いですね！</p> <p>・他の高校では出来ない事なので、とても良いと感じます。実際には、実現できる・実施できる事を体験させると、さらに</p>

						<p>良いと感じます。</p> <p>【提案】</p> <p>・興味があります。 毎年津別高校生のプレゼンを みていますが、せっかくだが、内容なのに現場の声をきいていないので、もったいない内容になっているなど感じることはありません。</p> <p>「調べる」の中に当事者にヒヤリングして現状把握することの重要性もぜひ入れてみてはいかがでしょうか？高校生の依頼ならみなさん快くお時間とってくれると思います。</p> <p>また、まちおこし大学も同様に机上の空論にならないよう、取り組みを行いながら知ること、自分で成功事例を体験することの重要性もカリキュラムに入っていたらいいと思います。</p> <p>・HALCCの活動は頑張られている反面、現実的に不可能な提案も多いように感じる。町内で現在実施している事に対する課題の洗い出しや効率化の提案に絞ってはどうか。</p>
--	--	--	--	--	--	---

2 保健・医療・福祉「支えあい、安心して住み続けられる地域づくり」～誰もが、いつまでも、いきいきと、安心して住み続けられるまち～

施策 2-1 保健・医療の充実「安心した生活を支える地域医療の充実と健康で暮らせる環境づくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 そのために挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支 援 (Assesment, Encourage, Support)
<p>◎津別病院が存続し地域医療が維持されており、誰もが必要な時に必要な医療を受けることができます。</p> <p>◎「地域包括ケアシステム」の向上・推進により、医療・福祉・介護・行政(教育)に関わる福祉サービスが一体的に受けられるようになっていきます。</p> <p>◎“病気になっても”、“介護が必要になっても”、住み慣れた地域で安心してその人らしく暮らし、最期を迎えたいという希望が叶えられるまちとなっています。</p> <p>◎健康寿命延伸に向けて町民一人ひとりが自ら健康づくりに取り組んでいます。</p>	<p>[2-1-1] 津別病院を中心とする地域医療体制の維持</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・コロナ禍にあり、津別町のワクチン接種を一手に引き受けていただき、町内に医療機関があることの重要性を改めて感じた。</p> <p>・コロナ禍で時間のとれない中ではあったが、地域医療の中核拠点として、町民にとって不可欠な病院として、改築に向けた対話を実施し、地域医療体制の維持に努めた。</p> <p>・地域医療体制維持のため、町内唯一の医療機関である津別病院に継続的に助成を行った。240百万円</p>	<p>・コロナ禍で受診者が減少し、病院経営的に厳しい状況が続いている。</p> <p>・建物、設備の老朽化の進行が著しく、建替えへ向けた、将来的な医療体制の構想づくりが急がれる中、総合計画に盛り込まれた地域医療の在り方を、会社・病院に提示したが、より具体的な町の要望の提示が求められた。</p> <p>・企業立病院であるため、将来的な医療機関としての経営・運営方針も会社の経営に大きく左右される。</p>	<p>・総合計画に盛り込まれた地域医療の在り方を基礎として会社・病院に要望書を提出した。今後、会社・病院からの回答を基に対話を深め、持続可能で、より良い町内医療環境が維持できるように取り組んでいく。</p>	<p>【評価】</p> <p>・具体的な街の要望とはどういったものか？ 病院は心配される場所なので、頑張ってもらいたい。ただオンライン診療や在宅医療など出てきている中で、将来どんな施設でどんな医療が出来るのか、経費はどのくらい必要なのか検討していく必要があると思います。</p> <p>・具体的な中長期計画を策定し、医療人確保・施設整備をする必要があると感じます。10年後に病院は残っていますが、医療資源の無い病院では町民サービスには繋がらないと思います。</p> <p>【提案】</p> <p>・地域に病院があることは、とても重要なことだと思います。建替えへ向けた取り組みについて、微々たるものかもしれませんが、ガバメントクラウドファンディングなども活用したりしてはいかがでしょうか？(すでに検討されているかもですが)</p>

<p>[2-1-2] 地域包括ケアシステムのさらなる向上・推進</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・高齢者が可能な限り住み慣れた地域で暮らし続けることを目指し、医療・介護の関係者や地域住民が連携し対応を協議する会議や研修会等を行った。(令和3年度実績) →『介護サービス事業所連絡会議』:11回/延、在宅医療・介護連携推進会議制作『保存版 つべつ医療と介護 ガイドブック』の発行、多職種が参加する研修会(テーマ:高齢者虐待防止):1回/7事業所・35人、地域ケア会議:7回、介護予防・生活支援体制整備事業協議会:1回</p>	<p>・高齢化の進展により、地域において「支え手」となるマンパワーの不足が懸念される。</p>	<p>・若い世代も役割をもって支えあい活動に参加できるよう提案する。例)LINEアプリを活用したSOSネットワークの登録推進、『認知症サポーターステップアップ講座』の開催、幅広い分野でボランティア登録 など</p>	<p>【評価】 ・どんどん新しいことをして素晴らしいですね。 ・地域包括支援センターのみ皆さんの取り組みは本当にすごいと思います!!医療と介護ガイドブック、まとまっていたてもわかりやすいです。相談された際に、いつでもご案内できるように営業バックに入れています。 ・医療を題材とした、シンポジウム等を開催してはどうでしょうか?まずは、興味を持って頂くことが肝心だと思います。 【提案】 ・町と津別病院の更なる連携が必要。双方で多くの課題はあると思うが、どうやったら実現できるかを検討してはどうか。</p>
<p>[2-1-3] 介護予防、重症化予防、リハビリ等の予防に向けた取組のさらなる重点化</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・介護保険制度による各種介護予防事業を計画し、社協や町内団体と連携しながら実施した。(令和3年度実績) →健康教育:2回/76人、いきいき百歳体操開催支援:4団体/延1,784人、ふれあいいきいきサロン:13団体(運動サロン含む)、高齢者運動教室(旧 転倒予防教室):24回/延204人、通所型介護予防事業(ミズナラ倶楽部):122回/延550人 ※一部事業は津別社協、かるっちゃんつべつへ委託し実施。 ・リハビリテーション専門職の派遣ならびに相談指導(令和3年度実績)津別病院のリハビリ専門職が同行し、家庭訪問並びに介護予防を目的に集う場所で個人相談や集団指導を行った。また、住宅改修を予定している高齢者宅で、身体状況に合わせた助言等を行った。 高齢者運動教室(旧 転倒予防教室)やふれあいサロンは、定期的に運動講師による指導を受けているためリハビリ専門職派遣の希望は無かったが、ミズナラ倶楽部や家庭訪問などで派遣回数が増加し昨年の2倍となった。 →家庭訪問:15回、家庭訪問以外の個人相談:2回、ミズナラ倶楽部・百歳体操等団体:8回</p>	<p>・身近な会場に集まって行う「集団参加型」の介護予防事業を展開していたが、令和3年度も新型コロナウイルス感染症対策により、積極的な(新規立ち上げ)勧奨を行えなかった。 ・休止再開を繰り返すうち体が弱り、参加できなくなる高齢者が複数名いた。</p>	<p>・国の介護予防方針が、感染対策から閉じこもりの解消となったことを受け、地域ぐるみで参加をPRをする。 ・リハビリテーション専門職とも協力しながら、高齢者自身が主体的に取り組めるような動機付けを継続する。 ・高齢者自身のモチベーションにも繋がるよう、介護予防に資する事業評価を行っていく。</p>	<p>【評価】 ・良いと思います! 頑張ってください! ・津別病院のリハビリテーション職が町の事業に積極的に参加できるよう、更なる連携を図れると良い。</p>
<p>[2-1-4] 自発的な健康づくり・健康維持に向けた取組の推進</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・特定健診、各種がん検診:令和3年度は新型コロナ感染予防策をとりながら、例年どおり夏と秋の集団健診を実施した。昨年度に続き、受診率向上を目的に個別勧奨ハガキを送付したことで、がん検診の受診率が増えた。 ・健診結果説明会:健診の結果の報告の方法は、健診結果内容に応じて、面談や郵送をしている。面談の場合は、日にちを設けて健診結果を個別に説明の機会をつくり、一方的な指導にならないよう生活実態に合わせて実施した。 ・運動栄養教室:健康づくりのための教室(アンチエイジング教室、60代の筋力アップ教室、食物学習グループ)を実施。</p>	<p>・がん検診の受診率はやや向上がみられたが、特定健診受診率は低い状態が続いている。 ・健診結果を説明した後、継続的に関わりが必要な方への支援が十分にできていない。 ・教室の新規参加者が増えないこと、健康意識の高い方が集まる傾向があることから、教室のあり方を評価し、新たな支援方針を見出す必要がある。</p>	<p>・受診率向上のため効果的だった、個別ハガキ勧奨を実施するとともに、R5年度に向けて新たな方法を模索する。 ・R4は新たな健診業者と契約することから、より質の高い健診を目指す。 ・健診結果支援体制を整備し、効果的な支援を実施する。 ・町のデータ分析をすることで課題を見出し、その解決のための施策を検討していく。</p>	<p>【評価】 ・良いと思います! 頑張ってください!</p>

2 保健・医療・福祉「支えあい、安心して住み続けられる地域づくり」～誰もが、いつまでも、いきいきと、安心して住み続けられるまち～
 施策 2-2 福祉の充実「つながり、共に支え合い、誰もが生きがいを持って暮らせる『地域共生社会』のまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 そのために挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支 援 (Assesment, Encouage, Support)
<p>◎年代、性別、障がいの有無などに関わりなく、地域全体で支え合い、共に生きる「地域共生社会」が構築され、地域コミュニティの力を活かした、地域での見守り・支え合い活動が活発に行われています。</p> <p>◎行政・地域・関係機関が一体となった包括的な支援体制の構築が図られ、充実した支援により、より一層高齢者や障がい者が住み慣れた地域で安心して暮らすことができる町となっています。</p> <p>◎高齢者が培ってきたことを活かし、より一層生きがいと楽しみを持って暮らせる町となっています。</p>	<p>[2-2-1] 地域の支え合いによる地域福祉の推進</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・認知症の方やその家族を地域の中で見守り、支えていく体制づくりの強化を図ることを目的に事業実施した。メール配信登録者の伸び悩みに対し、「LINE」アプリを活用した登録方法を開始した。(令和3年度実績) →メール配信システム「ささえねっと@つべつ」登録者:694人/配信0件、徘徊高齢者搜索模擬訓練:1回/34人 ・認知症高齢者が住み慣れた地域で生活を継続するために、医療、介護等の連携強化による地域の支援体制を構築する活動を行った。(令和3年度実績) →認知症初期集中支援チームによる支援:5人 →認知症地域支援推進員による活動(津別社協委託):「認知症の人にやさしいお店」登録:13事業所、認知症サポーター養成講座:1回/17人、認知症カフェの開催:2回/延9人、家族茶話会:1回/4人、出前カフェ:1回/0人(職員2人)、認知症高齢者見守り事業:12回/延72人、 →『認知症ケアパス』の作成:津別町で暮らす認知症の人やその家族が、「いつ」「どこで」「どのような」医療や介護サービスが受けられるのか、認知症の様態に応じたサービス提供の流れをまとめた。併せてクリアファイルも作成し、普及啓発に努めた。</p>	<p>・独力で登録が難しい町民に対し、普及に工夫が必要。 ・認知症高齢者とその家族を支えるために、どのような場が求められるのか更にリサーチが必要。</p>	<p>・高齢者の集まりに職員が出向き、PR並びに配信システムの登録を手伝う。 ・実際に案件が生じた際の配信だけではなく、「メールマガジン」等の情報提供で、平時からの体制づくりを実施する。 ・認知症高齢者とその家族を支える場について内容を精査する。 ・上記内容については、地域住民と協働で検討し創出する。例)認知症カフェを既存の店舗と共同開催、認知症サポーターステップアップ講座の実施、「認知症の人にやさしいお店」登録の推進等。</p>	<p>【評価】 ・良いと思います！ 頑張ってください！ ・メールマガジンはとても良いと思います。実現お願い致します。</p>
<p>◎障がい者の就労の場が確保され、社会の一員として生きがいを持って働くことのできる町となっています。</p> <p>◎認知症や障がい、発達障がい、特別支援教育に対する町民一人ひとりの理解度が向上し、相互に尊重し合う、福祉に優しい町となっています。</p> <p>◎多様な主体が参加する地域福祉・ボランティアが活発に行われ、福祉事業の先進地・中心地となっています。</p> <p>◎誰もが居場所と役割のある全世代活躍のまちづくりを目指しています。</p> <p>◎社会的孤立者といわれている生活困窮者やひきこもりの状態にある本人・家族を適切に支援する取組を推進します。</p>	<p>[2-2-2] 高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられる環境づくり</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・高齢者が培ってきたことを活かし、生きがいと楽しみを持って社会参加できるよう、規定に則りボランティア活動を行った際にポイントを付与する有償ボランティア事業を実施した。(令和3年度実績) →介護予防いきいきポイント事業 事前研修兼フォローアップ研修:1回、新規登録者2人/累計98人(65歳以上)、活動内容:6か所、延96人 →生活サポートセンター事業 事前研修:1回、フォローアップ研修:1回、新規登録者4人/累計88人、活動利用者:延38人、サポーター延28人 ・高齢者の様々な権利を守ることを目的とし、虐待防止や成年後見・市民後見推進に関する取り組みを行った。(令和3年度実績) →虐待防止研修会:1回、市民後見人フォローアップ研修:1回/21人 ※一部事業は津別社協へ委託し実施。</p>	<p>・コロナ対応で活動場面や受け入れ場所が少なかった。 ・高齢者自らも、主体的に社会参加できるような動機付けやモチベーションの維持で、様々な方法での体制づくりが必要。</p>	<p>・身近な地域で、社会参加や見守りが行える場の開催を支援する。例)ふれあいサロン、いきいき百歳体操、各種のボランティア事業等 ・高齢者本人も役割ややりがいを持って社会活動に参加できるように、ポイント付与などの仕組みを継続する。</p>	<p>【評価】 ・良いと思います！ 頑張ってください！</p> <p>【提案】 ・たまに相生サロンに参加させていただいています。「コロナ禍で、サロンにお手伝いに行ってもいいものだろうか？(年配の方に迷惑かけないだろうか?)」と心配したこともありましたが、行くともみなさん喜んでいただけたので、こちらが元気をいただけます。最近はなかなか参加できていませんが、若い方もお手伝いに行ってみると一緒に楽しんだりできるのかなと思います。</p>
	<p>[2-2-3] 予防を重視した在宅福祉・介護サービスの充実</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・高齢者の実態把握を目的とし、介護予防事業の参加状況や関係者からの情報提供、家族からの相談、職員が家庭を訪問して生活状況を把握した。 【個別訪問】年度内に80歳、85歳、90歳の年齢に到達する者を個別に訪問し、生活状況を把握した。(令和3年度実績) →80歳:46人、85歳:22人、90歳:9人、前年繰り越したまたは年齢外:13人 【安否確認訪問】生活支援員(ホームヘルパー)が定期的に訪問することにより、登録者の生活・健康面の変化を把握し早期に生活支援方法を検討した。(令和3年度実績)→12回/延83人</p>	<p>・これまで介護状態になってから対応していた高齢者について、「事前対応型」の支援が行えるようになったが、発見後のフォローについてマンパワー不足である。</p>	<p>・介護予防のため生活状況の改善が必要な高齢者に、適時必要な支援が行えるよう、地域住民とも連携できる場の継続。例)住民主体で運営する集まりや、身近な福祉相談所「ぼっと」の開催支援等</p>	<p>【評価】 ・良いと思います！ 頑張ってください！</p> <p>・マンパワー不足や新たな人材確保の課題について、人材募集をかける以外に現在取り組まれていることはあるのか。</p>

<p>[2-2-4] 障がいのある人が自立しやすい環境づくりの推進</p>	<p>保健福祉課</p>	<p>・町内に移動支援事業所が設立されたことにより、利用者の余暇支援や家族の負担軽減を図ることができた。 令和3年度利用実績⇒8人 ・係間だけでなく、病院などの関係機関と連携し、町内に在住している障がい者の実情アセスメントを実施することにより、適切なサービスに繋げることができた。 →就労系サービス:新規利用者 2人、総利用人数 23人 居宅介護:新規利用者 1人、総利用人数 1人 児童通所サービス:新規利用者 3人、総利用人数 26人</p>	<p>・令和3年度1人町内で一般就労できたケースはあるが、町内に雇用の場(サービス事業所)が少ない状況に変わりはない。 ・農福連携の話し合いがなかなか進まない。繁忙期のみの雇用では安定したサービス供給とは言えないので、通年雇用についての検討が必要である。 ・当事者意見を聴取する機会が少ない。</p>	<p>・定住自立圏構想の枠組みの一つとして1市4町で「北見地域地域生活支援拠点」となる基幹相談支援センターが設置された。今後も他市町とも情報を共有しながら、社会資源やニーズについて検討していく。 ・令和4年度に新たな町内サービスとして、民間による生活介護事業所が設置される予定であるため、障がい対象者が安心できる環境づくりが図れるよう情報共有していく。 ・当事者の意見聴取の場について設置を検討する。</p>	<p>【評価】 ・良いと思います！ 頑張ってください！ 津別でも働き口が増えるといいですね。 ・津別出身の方が、最近の津別の取り組みを知り、Uターンし生活介護事業所を開業されるというのは、とても理想なことだと思います。私もできる限り応援していきたいと思います。</p>
---------------------------------------	--------------	--	--	--	---

3 成果基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～

施策 3-1 交通環境の整備「快適・安心で潤いのある生活を支え人とまちの魅力をつなぐ交通環境の確保」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 そのために挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支 援 (Assesment, Encouage, Support)
<p>◎地域交通(公共交通)として移動ニーズに対応した移動サービスが確保されており、町民の交通環境が整備されています。</p> <p>◎町民の潜在力も含めた地域力が発揮され、地域に最適な利便性の高い生活交通等、地域交通の維持・確保が進められています。</p> <p>◎新たな技術の進歩を踏まえ、地域の実態に即した新たなモビリティサービスの導入検討が進められています。</p>	<p>[3-1-1] 津別町の地域特性に応じた面的な地域交通ネットワークの再構築</p> <p>[3-1-2] 地域交通(バス)の利便性向上と利用促進に向けた取組の推進</p>	<p>建設課</p> <p>建設課</p>	<p>津別町地域公共交通計画に基づき、タクシー利用助成券交付事業及び市街地巡回バスの運行を開始した。</p> <p>津別町地域公共交通計画に基づき、市街地巡回バスの運行を開始した。</p>	<p>近い将来に直面する運転手不足(運転手の確保)</p> <p>近い将来に直面する運転手不足(運転手の確保)</p>	<p>利用者ニーズに即したまちバスの運行時間等の見直し及び町内外交通の接続確保。</p> <p>利用者ニーズに即したまちバスの運行時間等の見直し及び町内外交通の接続確保。</p>	<p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転手やバスをステークホルダーごとでなく、一元化して管理できるプラットフォームみたくしてほしい。学校や必要な人がそこに電話したら予約できるような。 ・地域交通の重要性と持続させることの難しさを感じています。今と同じサービスを受け続けられるのはいつまでなのか？その為には何を必要とする必要があるのか町民にも知ってもらうのもいいかもしれません。 ・巡回バスの時間が短く感じます。午後の運用は難しいのでしょうか？ <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運転手不足という課題以外に、花バス運行開始後に見えた課題や利用頻度についての内部評価はどうなっているか。

3 生活基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～

施策 3-2 住環境の整備「自然と調和し、安心して快適な住環境が整備された住みやすいまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価			外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	
<ul style="list-style-type: none"> 若者や子育て世帯の定住促進に向けた多様な住環境が確保されています。 高齢者、障がいのある人にとって安心して住みやすい住環境が確保されています。 誰もが、ライフスタイルやライフステージに合わせて住み替えができる住環境が整備されています。 空き家バンク制度が町内外に広く浸透し、空家・空き店舗が定住促進・町の活性化に寄与しています。 町内在勤者や若年層の移住・定住が進み、日中と夜間、平日と週末の人口格差が少なくなっています。 	[3-2-1] 定住促進に向けた住環境整備の推進	建設課	<ul style="list-style-type: none"> 10年以上の定住確約を条件に、ふるさと定住促進奨励金を補助。新築分5件630万円、中古購入分5件130万円、改修分15件455万円。 		さらに、ふるさと定住促進奨励金制度の内容を充実し継続。	<p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 空地を買い取って、無償分譲するなどするとどうでしょう。活汲など良いのではと思います。 空き家バンクHPができて約3年、掲載を希望する空き家が以前より古く、改修にかなりの費用がかかるのでは？という物件が増えてきました。今年度から新築の補助金額増額になりましたが、中古物件の改修費用の増額も、ぜひ検討いただければと思います。 ふるさと定住促進奨励金制度の拡充は大変良いが、木材価格や鉄鋼資材の高騰は未だ先が見通せない状況であるため、新築希望者へは臨時的な給付補助を出されてはどうか
		保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が住み慣れた自宅で暮らし続けるために、介護保険制度を利用した福祉用具の購入、手すりの設置や段差解消などの住宅改修について、負担割合に応じた費用の支給を行った。(令和3年度実績) →福祉用具購入:28品、住宅改修:延28件 障がい者については日常生活用具等給付事業があり、障がいの種別により手すりの設置や段差の解消、扉の変更などの住宅改修を行うことができる。(令和3年度実績)⇒0人 	<ul style="list-style-type: none"> 町全体の課題として、老朽化した持ち家の管理や、段差が多い家での生活について苦心している高齢者が多い。 借家の場合、家主が改修の承諾をしないことが想定される。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者が安価な家賃で安全に住める、コンパクトな住まいの確保。 制度の普及啓発を図っていく。 	
		建設課	<ul style="list-style-type: none"> 空家等の除却を進めるため、空家等の撤去に対し1件50万円を限度に補助。12件579.1万円。 空家等の利活用を進めるため、空家の賃貸を目的として改修する方に1件50万円を限度に補助。2件100万円。 		空家等撤去促進事業補助制度、空家活用促進補助制度を継続。	

	住民企画課	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンクの活用により空家等情報の一元化及び利用者への紹介等を通じて空家利活用を図った。 →空き家等延べ登録数:空家25件(うち新規18件)、土地24件(うち新規7件) →利用希望者延べ登録数:95名(うち新規43件) →マッチング件数:住宅賃貸4件、住宅売買8件、土地売買2件 ・町内広報誌への周知チラシ折込や、町外者に向けて固定資産税納付書への周知チラシ折込、イベント等を利用した制度及びサポートデスクの周知等を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・長期間、登録されマッチングに至っていない物件があるため、何らかの取り組みが必要。 ・登録されていない物件への調査要望が増えている。所有者特定や登録に至るまでの時間と労力がかかり、サポートデスク業務の負担が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・現在でも物件・利用者ともに登録数は多く、他者の紹介での登録も見られるが、利用者側の希望に沿った物件が登録されていないこともあり、新たな掘り起しやルート開発を検討していきたい。 ・自治会や建築業者との繋がりをより深め、互いにwin-winとなるような関係性を作り連携していきたい。 ・利活用実績や優良事例等の発信を検討したい。 	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・良いと思います！頑張ってください！ <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家バンクでは、ここ1年くらいで新築用の土地を探しているという要望が増えています。希望エリアは旭町、豊永地域と学校やお店が徒歩圏内にあるエリアです。 人気エリアは中古物件をそのままにしておくより、解体して新築用土地として売り出した方がいいのでは？と感じています。このことについて、一緒に取り組めることがあったらと考えています。 ・空き家バンクの情報を全国へ向けて発信してはどうか。町民には価値を見出せない土地や物件も本州の方々には魅力的な物件も多く、移住者増の可能性も考えられる。
[3-2-3] 次期住宅整備計画策定に向けた検証と町民ニーズの把握	建設課	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き町営住宅入居希望者の入居理由の聞き取り ・入居案内をHPに掲載している。 		現在の住宅の現状を整理する。(今後の修繕見込、使用可能年数など)	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自治会と連携できて、サポートの負担が減ると良いですね。 <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・希望者からの要望をよくいただきますので、町HPのリニューアルに合わせて、ぜひ町営住宅、特定公共賃貸住宅、まちあり住宅などの間取りや部屋写真掲載もご検討ください。 ・町営住宅はペット禁と聞いていたが動物を飼っている家庭がある。車も所定の位置に駐車せず歩道を塞ぐなどルール違反が多く、個別に改善を促すべきではないか。

3 生活基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～

施策 3-3 生活基盤の整備「ずっと暮らし続けたいと思える安全・安心な生活環境の整備」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支 援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎町内で日常の買い物ができる環境が整っています。</p> <p>◎町民が地元の美味しい野菜や特産品を気軽に購入することができるようになっていきます。</p> <p>◎空家・空き店舗が減少し、すっきりとした街並みと景観が保たれたまちとなっています。</p> <p>◎誰もが手軽に様々な情報を得ることが出来る情報通信網が充実しています。</p> <p>◎災害時などいかなる場合においても、常に安全で安定した水の供給と生活排水の処理ができる環境が整備・保全されています。</p> <p>◎冬期間でも誰もが安心して歩いて暮らせる中心市街地(まちなか)が実現しています。</p>	<p>[3-3-1] 買い物環境の充実</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・起業等振興促進条例に基づき、カフェ及びパン工房の新規起業支援。町民の買い物環境の質の向上につながった。</p> <p>・R3年度もお買い物割引券を発行し、町内での買い物促進の一助になった。</p> <p>・地元食材を活用した飲食物や特産品の販売拠点として、レストハウスつべつの整備を実施したが、諸事情により現在休店中。年度内の再開に期待する。</p>	<p>・既存店主の高齢化。</p>	<p>・起業等振興促進条例がR4までの時限のため、継続検討。</p>	<p>【支援】</p> <p>・店舗型空き家の利活用、今後も推進していきます。</p> <p>【提案】</p> <p>・起業助成は評価されていることと思いますが、起業側からみるとどんな助成が良かったか不便だったか、ヒアリングを行い助成内容の良し悪しを精査してみると良いのではと思います。単年度の計画は大変な気もするので、2年度計画などの融通もあれば思ったりします。</p> <p>・販売価格の設定には、意見すべきではないですが、設定価格が高く利用しにくい傾向があるのでは？子供や高齢者が気軽に買えるものだと良いと思います(地元食材であるのに高いのはどうかと・・・)</p> <p>・ルカの運営については町づくり会社が新事業を検討されているようだが、前回の即休業を踏まえ町のチェックや支持体制を強化してはどうか。次は失敗できないのでは。</p>
		<p>住民企画課</p>	<p>【再掲(1-1)】・買い物等利便性確保の観点から、町内関連団体の推薦者からなる推進協議会(一般公開)や、議会の特別委員会、全員協議会において、中心市街地の整備(買い物環境整備、交通拠点整備、賑わい創出)について議論を行なった。今年度は図書館を含むコミュニティ棟整備の関係が主となった。</p> <p>→市街地総合再生基本計画推進協議会(令和3年度 8回開催)</p> <p>→まちなか再生事業調査特別委員会(令和3年度 8回開催)</p> <p>→全員協議会(令和3年度 4回開催)※議題該当回のみ</p>	<p>・長期的かつ波及的な経済効果が得られる事業としていくため、さまざまな条件(民間事業者との連携、補助事業の活用、人の集まる仕掛け作り等)を整理していく必要がある。</p>	<p>・引き続き、市街地総合再生基本計画推進協議会と、議会全員協議会で合意形成を図りながら、事業を進めていく。</p>	

<p>[3-3-2] 空家・空き店舗の利活用の推進</p>	<p>住民企画課</p>	<p>・空き家バンクの活用により空家等情報の一元化及び利用者への紹介等を通じて空家利活用を図った。 →空き家等延べ登録数:空家25件(うち新規18件)、土地24件(うち新規7件) →利用希望者延べ登録数:95名(うち新規43件) →マッチング件数:住宅賃貸4件、住宅売買8件、土地売買2件 ・自治会を通じた空き家の掘り起こしを積極的に実施した。</p>	<p>・現在までの期間では登録・マッチングともに常時動きがある状況だが、近い将来停滞することが予想される。新たな物件掘り起しの手法等について検討が必要。 ・リノベーション文化の浸透までは至っておらず、さらなる推進を図りたいが、継続して推進していく体制について検討が必要。</p>	<p>・現在でも物件・利用者ともに登録数は多く、他者の紹介での登録も見られるが、利用者側の希望に沿った物件が登録されていないこともあり、新たな掘り起しやルート開発を検討していきたい。 ・リノベーションのメリット等を実感してもらえるようなイベントを実施する。</p>	<p>【評価】 ・引き続き希望者が多い状況です。自治会の方々との連携も強化していきたいです。また、まちなか懇談会などで、空き家バンクのご紹介もさせていただけたらうれしいです。 ・具体的な費用等も含めた、実現例を見える化してどうでしょうか？利用したくても費用が見えず、消極的になってしまう感じがします。 【提案】 ・空家の利活用は資金力の課題から個人よりも企業の方が参入しやすく町に還元できる可能性が高いと感じる。そのため、補助金の対象範囲を法人企業にも適用して頂きたい。</p>
<p>[3-3-3] 町内施設における公衆無線(Wi-Fi)の充実</p>	<p>総務課</p>	<p>庁舎、町民会館、中央公民館、さんさん館に整備済。R3予定であったキノスへの導入については、親がスマホに注視して子の面倒が疎かになることを懸念し再度検討することとした。</p>	<p>町民会館、中央公民館、さんさん館については、2016年設置から5年以上経過し故障してもおかしくは状況ではあるため、状況を注視している。 WiFi6など最新の技術については、逆に古めのクライアントが安定しない場合もあるので、導入タイミングの見定めが難しい。 町内の携帯電波エリアについては事業者から拡充の予定がないと回答されているので事業者自身の展開に任せるしかない。</p>	<p>非公営の公共施設、飲食施設等への公衆WiFi設置運用支援が必要か検討すべきか？</p>	<p>【提案】 ・利用状況がつかめませんが、使う頻度がすくない場所はその間に必要ないのではと、どうしても必要であればポケットwifiなどで対応とかで良い気がします。 ・観光客へのアピールもおこなった方がよいと思います。公共の施設だけでなく、現状で民間施設でも無料Wi-Fi設置施設があるので、利用方法も含め、それがわかるようにしてはいかがでしょうか？津別町内のワーケーションアピールにもなるかと思えます。 ・観光等も考えると、整備済みの個所だけでは利用者はほぼ町民のみです。非公営施設も含めてエリア的に充実させる必要はあると思います。 ・wi-fiを導入したからといって子の面倒が疎かになるほどスマホに依存する親がいるとは考えにくい。携帯電波エリアについては災害や有事を踏まえて再検討してほしい。</p>

<p>[3-3-4] 安心して快適な社会基盤を備えたまちづくりの推進</p>	<p>建設課</p>	<p>【道路河川】橋梁長寿命化修繕計画、舗装修繕計画により、計画的に橋、道路の修繕を行っている。 【住宅】空家撤去に対し補助。12件579.1万円。 【水道ソフト】R2.12に老朽管路更新計画を策定し、R6年度より計画的に更新を行う。 年度当たりの更新費を見直し、運営審議会に諮った。(R3) 【下水道ソフト】H30.12策定の下水道ストックマネジメント計画により、計画的に施設の更新を行っている。 【上水道ハード】令和3年に高台低区配水池更新に向けた実施設計を行った。 【下水道ハード】下水道ストックマネジメント計画に則り、下水道管理センター設備更新工事とマンホールポンプ更新工事を推進し、下水道環境が整備された。→処理場機械・電気設備、マンホールポンプ設備(R3)</p>	<p>【道路河川】修繕費用が大きくなってきており、計画の進捗が遅れ気味である。 【水道】対応年数内での更新を計画したが年度あたりの事業費が膨大なため、資金需要との調整が必要である。 【下水道】設備単位での更新となるため、ものによって膨大な更新費が必要となるが、国費の配分によっては計画伸延も考慮しなければならない。 【上水道】【下水道】老朽施設の改修と施設の耐震化を続けていく中で整備計画と資金計画を検討しなければならない。</p>	<p>【道路河川】第2次となる橋梁長寿命化修繕計画を策定し、新技術の活用などで費用の削減を図る。 【水道】緊急時等にも対応できるよう「水安全計画」の策定を進める。 【下水道】公営企業法適用に合わせたストックマネジメント計画に見直しを行う。また、緊急時等にも対応できるよう「下水道BCP」の改定を行う。 【上水道】【下水道】給水人口の減少により料金収入が減収しており、今後の健全経営のため料金改定を検討する。</p>	<p>【評価】 ・整備ありがとうございます。 ・町民の生活に直結するインフラ整備事業は継続的に必要であると感じる。また、町民が要望している修繕箇所も聴取して頂きたい。</p>
<p>[3-3-5] 防災体制の整備</p>	<p>総務課</p>	<p>・訓練や研修など未実施。 ・IP無線購入17台、広報車両スピーカー強化3台、投光器6台購入などの機材整備。</p>	<p>コロナ禍により住民等が参加しての訓練等の実施が難しい。</p>	<p>・職員による訓練や研修の実施。 ・住民も参加しての避難所開設訓練等の実施。</p>	<p>【提案】 ・自治会との連携強化すると良いかと思います。</p>

3 生活基盤・環境保全「選ばれる安心快適なまちづくり」～住みやすさを実感できる快適で豊かな生活環境のあるまち～

施策 3-4 環境保全・エネルギー政策「『エコタウンつべつ』実現に向けた先進的なまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支 援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎再生可能エネルギー(太陽光・バイオマス)の比率が高まり、石油燃料依存体制からの脱却を実現し、持続可能な循環型社会・低炭素社会に近づいています。</p> <p>◎木質バイオマスによる暖房システムが町全体に整備され、各施設での木質バイオマスボイラーの普及率が高まっています。</p> <p>◎「エネルギーの地産地消」の実現に向けたエネルギー政策を積極的に推進しています。</p> <p>◎「環境と経済の好循環システム」が構築されています。</p> <p>◎緑豊かな美しい自然環境が維持されています。</p> <p>◎省エネの取組がされています。</p>	<p>[3-4-1] 木質バイオマス活用促進に向けた取組</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・「地域内エコシステム」モデル構築事業(林野庁事業)に応募。令和元年度から3年連続継続地域として採択(全国25地域の一つ)。地域資源である木質バイオマスを活用し、川上(原料供給)、川中(燃料製造)、川下(エネルギー利用)までのサプライチェーンの構築と、資源・エネルギー・経済の持続的な地域内循環の仕組みづくり(「地域内エコシステム」の構築)に向けて精度向上を図った。</p> <p>・木質バイオマスセンター建設工事に向けた実施設計を実施。</p> <p>・木材工芸館木質バイオマスボイラー導入に向けた実施設計を実施。</p> <p>・町民対象に再エネ勉強会(11/17)と成果報告会(3/2)を開催。</p> <p>・中間土場(旧日本岐中学校グラウンド)を拡大(一部利用から全面利用に拡大)。</p> <p>・福祉施設の木質バイオマスボイラー導入可能性調査を実施。</p>	<p>・住民及び関連事業者等との合意形成。</p> <p>・サプライチェーンの構築に係る施設整備に向けた事業費の確保。</p> <p>・事業費の町負担を減らすための補助事業の選択と活用。</p> <p>・専門知識を有した機関との連携協力。</p>	<p>・「地域内エコシステム」の構築に向けた、木質バイオマスセンターの建設、及び木材工芸館キノスへのチップボイラー導入、その他公共施設への木質バイオマスボイラーを導入。</p> <p>・つべつウッドロスマルシェの構築により全国へ周知。</p> <p>・化石燃料の価格に影響しないエネルギー地産地消のまち。</p> <p>・住民等への勉強会を継続開催し、更なる合意形成を図る。</p>	<p>【評価】</p> <p>・勉強会をオンライン視聴できるのは本当にありがたいです。</p> <p>・津別町独自のエネルギー供給方法が確立されればSDGsの観点からも全国的に注目が集まる事業になると思う。ゆくゆくは町民の生活に還元できるようにになれば良いと思う。</p> <p>【提案】</p> <p>・一般の人でも使いやすいものを目指してほしい。ランニングコストがかかるのであれば、公共施設もハイブリットにしてコスト削減を目指してほしい。</p>
	<p>[3-4-2] 再生可能エネルギーの推進・PR</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・町広報(2022年2月号)にて特集「木質バイオマスの取組」を掲載。</p> <p>・広報番組「タウンニュースつべつ」(#58)にて、木質バイオマスの原料である林地残材の収集(ウッドロスマルシェ)について紹介。</p> <p>・町広報(2021年5月号)にて、補助金制度のお知らせ(太陽光、ペレットストーブ)を掲載。</p> <p>・町広報(2021年10月号)にて、補助金制度のお知らせ(ペレットストーブ)を掲載。</p> <p>・新エネコーディネート支援事業(北海道)を活用し、V2Xについて調査を依頼。太陽光発電と蓄電、電気自動車について簡易な導入可能性調査を実施。</p> <p>・農業用水路における小水力発電の導入可能性調査を実施(企業局の無料支援事業を活用)。</p>	<p>・木を集める仕組みを町民に周知し、理解し、協力してもらうこと。</p> <p>・専門用語をわかりやすく簡潔に伝えること。</p> <p>・再エネの設備費用等コストが高いこと。</p>	<p>・複合施設にV2Bシステムを導入し、電気自動車の普及推進を図るとともに、停電等災害時には電気自動車が避難所に行き、電源が確保できる仕組みづくりを構築。</p> <p>・防災×再エネ×ゼロカーボンを目指す。</p> <p>・年1回、広報等により再エネの取組を掲載。</p>	<p>【提案】</p> <p>・近年の原油価格高騰によりペレットや太陽光へのエネルギーシフトも働いているため、より活用されるよう導入による費用対効果を客観的な数値で示せると良いのでは。</p>

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4-1 林業の振興「人・木・森を育て新たな価値を創出する未来へと繋ぐ森林産業の振興」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支 援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎林業が誇りある基幹産業として地域を支え続けています。津別の林業・林産業ブランドイメージと全国的な知名度がより高まっています。</p>	<p>[4-1-1] 労働環境の更なる向上とイメージ戦略による林業技術者及び担い手の確保</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・森林環境譲与税を活用し、町内事業体にて令和2年4月1日以降採用し、1年間就業した場合、補助金を交付している。 →令和3年度 2事業体5名が就業し、補助金を交付している。 ・広報番組「タウンニュースつべつ」(#58)にて、林業最前線で(有)北野産業の世代交代や林業の魅力について紹介。</p>	<p>・林業従事者で町外から町内の賃貸住宅へ移住した場合の補助として「住宅準備補助金」を準備しているが、該当者が出ていない。</p>	<p>・町内事業体に就業した方へ、会社から住宅準備補助金を説明し、津別町移住を推進してもらおう。</p>	<p>【提案】 ・大学などとコラボして、助成しながら就労できる人材を確保できないか。</p>
<p>◎林業が若者の憧れの職業になっています。若い世代に林業・技術が引き継がれています。</p> <p>◎森林・林業教育が学校や地域で行われ、子どもから大人まで津別の林業・木材加工技術に関する知識を持ち、全国の人に向けて町民一人ひとりがその魅力を発信できるまちとなっています。</p>	<p>[4-1-2] 林業の機械化・効率化の促進とスマート化に向けた調査研究</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・森林環境譲与税を活用し、町内事業体にて、労働者の安全及び効率化を目的として、購入した装備品に対して補助金を交付している。 →令和3年度 2事業体42名の購入費に対し補助金を交付している。 ・森林環境譲与税を活用し、町内事業体にて、林業の機械化・労力の省力化を目的として購入した機械に対して補助金を交付している。 →令和3年度の実績は無いが、令和2年度に2事業体4機の購入費に対して補助金を交付している。</p>	<p>・林業機械の納期が長い。ため、年度内申請、納品が難しい。</p>	<p>・補助金を活用し、町内林業事業体が機械化や効率化を図り、木育授業を体験した学生が町内の林業事業体へ就職先として選択肢の候補になるようPRしてもらおう。</p>	
<p>◎労働環境や安全面のさらなる向上により、安定した収入が確保され、意欲的で高い技術を持った林業従事者が多く働いています。</p>	<p>[4-1-3] 林業・林産業のブランディングとプロモーションの推進</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・外部機関へ、「津別町地域ブランド化の可能性調査業務」として見積りをとり検討した。現段階では外部委託ではなく、町内の関係事業体と合意形成を図り、まちづくり会社主体でのブランド化可能性調査を検討している。</p>	<p>・津別産木材の地域ブランド化を図るための条件整理(当町の地域ブランド化の実現可能性の有無)ができていない。</p>	<p>・町内関係事業体へ、津別産木材の地域ブランド化に関する聞き取りを行い、津別町ブランド化の方向性を確立する。</p>	
<p>◎ICT化・機械化による効率化が進み、先駆的な技術・手法を取り入れた持続可能な林業が展開されています。</p>	<p>[4-1-4] 津別産木材の地域ブランド化と利用促進</p>	<p>産業振興課</p>	<p>4-1-3と一体となって展開することが効果的と想定している。</p>			
<p>◎適正な施業と維持管理により、植え付けから伐採・利用までの理想的なサイクルが整い、木材需要に対応した、多様で健全な森林が形成されています。</p>	<p>[4-1-5] 競争力強化に向けた町内企業との連携強化</p>	<p>産業振興課</p>	<p>令和6年度より実施する予定である。</p>			
<p>◎地域資源を活かした木質バイオマスなど再生可能エネルギーの利用が全町に波及し、温室効果ガス排出削減・災害防止などに寄与しています。</p>	<p>[4-1-6] 木育の推進と学校教育での林業体験学習の充実</p>	<p>生涯学習課</p>	<p>【木育】木の町に生まれ育った子どもたちが、津別の基幹産業である林業等への理解を深めながら将来を担う人材を育成するために、小学校3・5年生、中学1年生の3学年で講師を招へいし、森で木に触れる体験や木工品製作を実施。</p> <p>・丸玉木材の工場見学を中止している。丸玉木材を見学できていれば、再生可能エネルギーの利用についても学ぶ機会を予定していた。</p>	<p>【木育】講師が高齢化していき、次の講師選定を現講師と検討中。</p>	<p>・学校運営協議会を活用し、授業の見える化を図っていく。</p> <p>R3は中止となったが、再生可能エネルギーを学ぶ場として丸玉木材の見学を予定している。</p>	
		<p>産業振興課</p>	<p>・5年生の木育授業では、校庭内に植栽されている4種の葉を紹介した。 ・3年生の木育授業では、天然林と人工林の違い、輪尺による樹木の測定を体験してもらった。</p>	<p>・林業体験授業は町有林の事業だけでは、時期や場所の選択肢に限られるので、実施できていない。</p>	<p>・林業事業体と連携し、実地的な林業体験授業が出来るよう検討する。</p>	

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4-2 農業の振興「持続可能で創造性の高い魅力ある農業の振興」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価			外部評価 挑戦に対する評価、激励、支 援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
			挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	
<p>◎スマート農業と大型機械化が進み、津別ならではの創造性の高い農業が実現しています。</p> <p>◎計画的な農地整備、機械化により、安定的で生産性の高い農業が行われています。</p> <p>◎地域で作られた安全・安心で美味しい野菜・農作物を食べることが出来ます。農業体験や「食育」を通じて、子どもたちが津別町の農業の魅力と価値をより一層感じられるようになっていきます。</p> <p>◎「美味しい〇〇〇〇といえば津別町」という全国区の特産品が生まれています。</p> <p>◎グリーンツーリズムをはじめとする農業×交流の体験プログラムが充実し、新しい人のながれとリピーターが農業への活気をもたらしています。</p>	[4-2-1] スマート農業の導入促進・大型農業機械の導入促進	産業振興課	<p>・令和2～3年度の2ヵ年計画で産地生産基盤パワーアップ事業を活用し、ICT対応型機種としてGPS自動操舵システム100台、可変施肥対応型ブロードキャスター32台、車速連動装置付スプレーヤ37台、農薬散布ドローン2台を導入。最先端技術の導入により、作業精度向上による収量の増加、労働時間の縮減等が図られ、労働生産性の向上が期待される。</p>	<p>・農作業機械が資材不足等の影響により年々高騰しており、生産者全体の普及が難しい。</p>	<p>・「スマート農業」のみならず、環境負荷軽減を目指す「みどりの食料システム戦略」と一体的に推進できるよう関係機関と具体的に協議を行う。</p>	
	[4-2-2] 「食育」の推進・農業体験の充実による農業の価値・魅力向上に向けた取組	産業振興課	<p>・新型コロナウイルスの影響により、令和2年度に引き続き、令和3年度においても教育旅行の受入が全て中止となった。また、会員減少による担い手不足を解決する1つとして、受入の広域化に取り組んでおり、既に数か所の市町村と連携が取れている。管内問わず、管外の協議会との連携においても模索していく。</p>	<p>・新型コロナウイルスの影響により、事業そのものの実施が困難となっている。</p>	<p>・農業のみならず、津別町の更なる魅力発信のために農業・林業・観光など政策間連携による事業運営について検討する。</p>	
		生涯学習課	<p>【食育】食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身に付けることができるようになることを目的とする。</p> <p>・オール津別産給食～例年11月頃にオール津別産給食を3回(精米・麺・パンの主食で各1回)実施。子ども達に地元の食材を使った給食を通して、少しでもふるさと津別のことに興味をもってもらい、郷土への愛着や感謝の気持ちを育むことを目的に実施。</p> <p>・地元食材を使った給食の提供～普段の給食に可能な限り地元食材を使い、地産地消の意義や大切さを知ってもらうことを目的に実施。</p> <p>・食育授業の実施～平成21年4月から栄養教諭が配置されたことから、本町においても「食に関する知識」「食を選択する力」「望ましい食習慣」を身につけさせ、健全な食生活を実践することができるよう津別小学校で食育の授業を行い、食育の推進を図っている。各学年ごとにテーマを決めて実施。</p> <p>【農業体験】小学3年生及び中学2年生の総合の授業で生産者の思いを聞いた後に、収穫体験を実施。かぼちゃの収穫や玉ねぎの選別等を体験している。また、津別小学校では、JA職員を授業にお呼びし、津別で生産している農産物や農家・JAの仕事について説明いただいている。</p>	<p>【食育】コロナ禍での授業の中で、生産者の思いを聞くなどの場も設けてみたいと考えているが、取り組めていない。</p> <p>【農業体験】コロナ禍でバス移動(1台で密になる)がしにくくなっている。</p>	<p>【食育】今後、授業の中で、生産者の思いを聞くなどの場も設けてみたい。</p> <p>【農業体験】今後も、町の一次産業を体験する機会を作り続けていきたい。</p> <p>・食育・農業体験ともに 学校運営協議会を活用し、授業の見える化を図っていく。</p>	
	[4-2-3] 津別産食材のブランド化・生産者が主体となった6次産業化の推進	産業振興課	<p>・町内の生産者が設立した「つべつ' TAKE ACTION' ミーティング」において、多種多様な検討課題がある中で、食材のブランド化、6次産業化等も協議されている。本団体にはJAや役場、まちづくり会社等も参画しており、官民が一体となって推進していく。</p>		<p>・実現に向け、引き続き協議する。</p>	<p>【提案】 ・コンペとかで募集して作ってみるのも面白いかもしれませんね。</p>
[4-2-4] 農業の担い手の確保・人材育成	産業振興課	<p>・新型コロナウイルスの影響が続く中、新たな労働力確保に向けてJAとともに協議を行っている。令和3年度は新規法人が1社設立し、次年度(令和4年度)については、農業の担い手不足解消に取り組む地域おこし協力隊としてJAつべつに1名着任予定である。令和2年度の新規就農者1名についても継続して就農時の資金面のサポートや収益の安定に向けた体制整備をJAと連携行ってきた。</p>	<p>・新型コロナウイルスの影響(移動の制限等)により、人材の確保が難しい。</p>	<p>・新規就農者の受入と雇用拡大に向け、引き続きJAと連携を行う。</p>		

<p>[4-2-5] 強い農業・持続可能な農業に向けた基盤整備</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・本町の農業における生産能力の拡大と持続可能な農業の推進のために下記の事業を計画、実施した。</p> <p>1、土地改良等</p> <p>①国営農地再編整備事業(津別地区)H27年から継続 受益面積2,482ha、R3実績 区画整理705ha(うち調査測量116ha)</p> <p>②道営水利施設等保全高度化事業(津別1地区)R3年新規採択 受益面積220.2ha R3実績 調査測量200ha</p> <p>③農業水路等長寿命化・防災減災事業(東岡地区)H30から継続 受益面積202ha R2完了 水利施設整備 配水施設 L=1,981.6m</p> <p>③農業水路等長寿命化・防災減災事業(最上地区)R2新規採択 受益面積35,442haha R2完了 水利施設整備 配水流量計等 一式</p> <p>④農地耕作条件改善事業(相生地区)R1年から継続 受益面積18.4ha R3実績・完了 農業用排水路 L=591m</p> <p>④農地耕作条件改善事業(岩富地区)R3年新規採択 受益面積6.95ha R3実績 調査測量 L=400m</p> <p>⑤小規模土地改良事業 暗渠配水 L=1,919m</p> <p>2、農業生産機能維持向上</p> <p>①多面的機能支払い交付金事業 鹿侵入防護柵・農業用排水・農業用作業道等の維持補修</p> <p>②鳥獣被害防止対策事業 有害鳥獣の駆除</p> <p>③環境保全型農業直接支払交付金事業 環境に配慮した農業生産への支援</p>	<p>1、土地改良等 気象変化に伴い土地改良のニーズは高まっている。加えて農業従事者の高齢化及び労働力不足に伴う機械の大型化に対応することが必要となっている。 また、安定的な生活および営農を行うための営農用水等の整備が必要となっている。</p> <p>2、農業生産機能維持向上 農業従事者の高齢化及び労働力不足に伴う担い手の確保が必要となっている。</p>	<p>1、土地改良等 ①国営農地再編整備事業(津別地区) 継続 ②道営水利施設等保全高度化事業(津別1地区)継続 営農用水整備(津別2地区)の計画の策定 ④農地耕作条件改善事業(岩富地区)継続 ⑤小規模土地改良事業 継続</p> <p>2、農業生産機能維持向上 ①多面的機能支払い交付金事業 継続 ②鳥獣被害防止対策事業 継続 ③環境保全型農業直接支払交付金事業 継続</p>	
-------------------------------------	--------------	--	--	--	--

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4-3 雇用確保・商工業の振興「多種多様な働く場を広げ誰もが笑顔で働くことができるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支 援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎まちなかに複合商業施設が整備され、町内で生活に必要な買い物をすることができます。 周辺に多様な業態の店舗が営業をはじめ、中心市街地ににぎわいが戻ってきています。</p> <p>◎世代間・異業種・同業種の交流が活発に行われ、横の連携による様々な活動が行われています。</p> <p>◎若者にとって魅力ある仕事があり、住みやすい環境が整い、若者の定住が進んでいます。</p> <p>◎老若男女、障がい者も高齢者も外国人も、働きたい人が働ける、魅力ある仕事や働きやすい環境が整っています。 働き手のニーズと仕事のマッチングにより労働力不足が解消しています。</p> <p>◎店舗や経営者の事業承継が進み、若者へノウハウやスキルが受け継がれています。</p>	<p>[4-3-1] 若者の定住促進策と連動した若者の雇用推進</p>	住民企画課	<p>・コワーキングスペースJIMBAの利用促進により、テレワーク等の誘致促進を図った。</p> <p>・移住定住サポートデスクにおいて、道東テレビの生配信番組「the井戸端会議」とコラボしたオンラインイベントを開催し、移住定住の魅力について発信した。 →オンラインイベント:2件</p>	<p>・コロナ禍の影響により町内外の往来が制限されており、移住促進への脅威となっている。</p> <p>・移住定住サポートデスクにおけるイベント参加についても、コロナの影響によりイベントに参加できず。</p>	<p>・コロナ禍中が続けばオンラインがメインとなるが、動きを止めずに情報発信を継続していきたい。</p> <p>・限られたチャンス内でのイベントへの参加など、推進のために最大限促進していく。</p>	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・とても良い取り組みと感じます。応援しています。 ・JIMBAでテレワークをしている方は実際どのくらいいるのだろうか。コワーキングスペースの概念に現在の利用の仕方が合致しているのだろうか。 <p>【支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍でなかなかできなかった、道東テレビでのオンラインでのイベントと、その後JIMBARでの交流両方進めていき、更に関係を強化できればと思っています。
		産業振興課	<p>・小規模事業者若者雇用促進助成金事業の継続実施。 →R3新規助成:2事業者3名(年間4事業者6人)</p> <p>・UIJターン新規就業支援事業の継続実施と町内企業への法人登録の推進。 →R3移住支援金支給:単身2名</p>	<p>・事業者と求職者、それぞれが求める仕事のマッチング</p>	<p>・R4より、小規模事業者若者雇用促進助成金事業の要件緩和。時限要綱のため、継続検討。</p> <p>・R4より、UIJ新規就業支援事業の要件拡大。</p>	<p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若者だと全体的に少ないので、外国人の雇用の促進、補助なども考えてみてはどうだろうか。
	<p>[4-3-2] 商業の振興と買い物環境の確保(複合商業施設の整備)</p>	住民企画課	<p>・【再掲(1-1)】・買い物等利便性確保の観点から、町内関連団体の推薦者からなる推進協議会(一般公開)や、議会の特別委員会、全員協議会において、中心市街地の整備(買い物環境整備、交通拠点整備、賑わい創出)について議論を行なった。今年度は図書館を含むコミュニティ棟整備の関係が主となった。 →市街地総合再生基本計画推進協議会(令和3年度 8回開催) →まちなか再生事業調査特別委員会(令和3年度 8回開催) →全員協議会(令和3年度 4回開催)※議題該当回のみ</p>	<p>・長期的かつ波及的な経済効果が得られる事業としていくため、さまざまな条件(民間事業者との連携、補助事業の活用、人の集まる仕掛け作り等)を整理していく必要がある。</p>	<p>・引き続き、市街地総合再生基本計画推進協議会と、議会全員協議会で合意形成を図りながら、事業を進めていく。</p>	<p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドラッグストア建設については今年度中に改めて町民の意見を伺う機会を設けてはどうか。

	産業振興課	<ul style="list-style-type: none"> ・起業等振興促進条例に基づき、カフェ・パン工房の新規起業支援。町民の買い物環境の質の向上につながった。 ・地元食材を活用した飲食物や特産品の販売拠点として、レストハウスつべつの整備を実施したが、諸事情により現在休店中。年度内の再開に期待する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存店主の高齢化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・起業等振興促進条例がR4までの時限のため、継続検討。 	<p>【支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、町内町外とわず起業希望者のサポートを推進していければと思います。 <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「クマヤキ」等の購入希望の多い商品の町内販売は検討しないのですか？また、学生・若者が購入しやすい価格帯のものも配置整備するべきと考えます。
[4-3-3] 多様な働き手・担い手による労働力確保	保健福祉課	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度1人町内で一般就労につなげることができたが、障がい者の雇用の拡大を図ることまではできていない。 ・前年度に引き続き、人材活用センターの運営費(専門員の人件費相当額)を補助した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の就労支援事業所はB型のみで、B型の就労に該当しない障がい者は就労の場がない。 ・定年後のライフスタイルの変化や、既登録者の高齢化、新規登録者の減により、登録者数が減少傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援協議会での協議や町内の関係機関と協議しながら、障がい者、事業所、双方のニーズを捉えることとで、雇用や就労の場の拡大に努めたい。 ・人活センターの就業内容を住民や町内企業に広報し、定年退職者に向けてのPRに努めてもらうことで会員数の維持確保に努めたい。 	<p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がい者はもちろん。外国人も考えて働きやすい環境を整えていってみたいだろう。
	住民企画課	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道つべつまちづくり株式会社が行う求人求職マッチング促進事業に協力し、津別町内事業所の魅力や求人情報を集約したサイト『津別町仕事情報発信サイト ワークINツベツ』を運用している。 →掲載申込事業所数:27件、うち新規1件 ・事業者へ求人求職マッチングに関するアンケートを実施し、サイト運営等の改善を図った。 ・支援制度や資格取得等について、随時お知らせとして掲載し情報発信した。 ・サイトのチラシ・ポスターを作成し、町内事業所や関係各所に掲載するようPR活動を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・津別町の実態を把握しきれず、実施すべき対策を明確にすることができていない。 ・町内の事業所の就職にサイトによる効果があったかわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・求人、求職情報を収集し、課題を整理した上で、津別町に適した対策について検討する。 ・サイト運営を通じて新たな課題が出てくるのが予想されるので、柔軟に対応し、都度改善を図っていきたい。 ・代表者及び従業員へ取材を行い、事業所の魅力をもっと伝えていく。 	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求職マッチング事業は大変素晴らしいと感じますが、その周知方法や必要性を上げることが大事かと。ハローワークとの差別化や求人アプリとの比較も検討すべきと感じます。 <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材活用センターもワークインツベツに掲載してはいかがでしょうか？ <p>・ワークINツベツの運営による効果を示してほしい。また、町外や全国に向けての発信も必要と考えるが現時点でどこまで進めているのか。</p>

<p>[4-3-4] 各種交流促進によるスキル・ノウハウ継承の推進</p>	<p>住民企画課</p>	<p>・北海道大学学生サークルHALCCと津別高校生との高大連携事業として、「調べる力」「考える力」「伝える力」を身に着けることを目標として、津別の未来を考えた高校生総合計画を作成。大学生を通じてまちづくり人材の育成を図った。 →高校生による提案15件(令和3年度)</p>	<p>・コロナの影響により高校生と大学生の交流が制限されたため、思うような活動ができない。</p>	<p>・やったことが自信となるように「提案」として終わらすのではなく、形として残る「成果」として残すところまで取り進めたい。</p>	<p>【評価】 ・若者ほどコロナの影響は少ないです。オンラインを活用し、リアル対面以上の連携事業を進めるべきと感じます。学生の時間は有限です、今出来る経験をさせてあげたいものです。</p> <p>【提案】 ・毎年津別高校生のプレゼンを見ていますが、せっかくなのに現場の声をきいていないので、もったいない内容になっているなど感じる場合があります。 「調べる」の中に当事者にヒヤリングして現状把握することの重要性もぜひ入れてみてはいかがでしょうか？高校生の依頼ならみなさん快くお時間とってくれると思います。</p> <p>・令和3年度に高校生の提案が15件あるが、その中の1提案に絞り、実現するところまで取組んでみてはどうか。</p> <p>・事業継承のリストをつくってみてはどうだろう。</p>
<p>[4-3-5] 企業誘致・街並みの整備</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・起業等振興促進条例に基づき、1件の企業誘致(Local Found)</p>		<p>・起業等振興促進条例がR4までの時限のため、継続検討。</p>	
	<p>住民企画課</p>	<p>・複合庁舎建設等まちなか再生基本計画に基づくコミュニティゾーンでの、図書館、交通拠点、買い物拠点の一体的な整備を行う中で、まちなか地区の景観向上へとつなげることも目指し整備を進めた。</p>	<p>・施設整備に係る住民合意を得られていない部分がある。</p>	<p>・情報発信を心がけ住民合意を得ることで、円滑に整備事業を進めていきたい。</p>	<p>【評価】 ・住民合意は必要かと感じます。柔軟に計画を修正する事も必要なのでは。期待感よりも不安感・不透明感の声を聴く機会が多いです。</p> <p>【提案】 ・景観向上を謳うのであれば、ドラッグストアは消防方面の空地に配置したほうが良いのでは。役場庁舎、図書館、交通拠点の景観にドラッグストアはミスマッチでは。</p>

4 産業・雇用「人・地域が輝くたくましい産業づくり」～未来へ繋ぐ農林業の振興と果敢なチャレンジが生まれるまち～

施策 4-4 創業支援「創造・革新・交流が生み出す好循環が人を惹きつけ新たなビジネスを創出するまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支 援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>◎新規起業への支援制度や体制、情報発信が充実し、創業・起業するために多くの人が集まっています。</p> <p>◎空き店舗を有効活用したビジネスの拠点や魅力的な店舗の開業、交流の場など、多様な広がりを見せています。</p> <p>◎事業承継が進み、自営業者の世代交代が円滑に進んでいます。</p> <p>◎町内にコワーキングスペース等が充実し、自由で多様な働き方を受入れる環境が整っています。</p> <p>◎町内・町外の人交流できる多様な場があり、それぞれ活発な交流活動が行われています。</p>	<p>[4-4-1] 創業・起業・交流のための空き店舗等の活用</p>	<p>住民企画課</p>	<p>・空き家バンクの活用により空家等情報の一元化及び利用者への紹介等を通じて空家利活用を図った。 →空き家等延べ登録数:空家25件(うち新規18件)、土地24件(うち新規7件) →利用希望者延べ登録数:95名(うち新規43件) →マッチング件数:住宅賃貸4件、住宅売買8件、土地売買2件 ・自治会を通じた空き家の掘り起こしを積極的に実施した。 ・コワーキングスペースJIMBAの利用促進により、テレワーク等の誘致促進を図った。</p>	<p>・コロナ禍において町内での多世代・異業種交流に制限があり、停滞気味である。 ・町外者の往来が制限されており、情報発信や相互交流がオンラインメインとなっている。</p>	<p>・空き家バンク、コワーキングスペース、地域おこし協力隊などの各種制度や施設の連携を通じて、空き家や空き店舗を利活用した起業等を推進していく。</p>	<p>【支援】 ・最近では休眠店舗へのききとり調査なども行っています。今後も様々な起業希望者に、すぐご紹介できる体制をつくっていかうと思います。</p> <p>【提案】 ・協力隊をPR部門など、苦手な部分などをフォローできるような仕組みがあると良いのではと思います。広告代理店経験や、特化した人を絞ってみてはいかがでしょうか。</p> <p>・空家について所有者の特定や、危険な物件に関しては順次解体を進めるなど町として何かしらのアクションが必要ではないか。空地の新しい利用方法の検討も含めて。</p>
	<p>[4-4-2] 地元企業・経営者への支援</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・商工会や両信金が中心に地元企業・経営者の支援を実施。 ・中小企業者等の設備投資による生産性向上支援のために、先端設備等導入計画の期間延長をした。 ・起業等促進条例補助金や小規模事業者若者雇用促進助成金、特産品販路拡大支援補助金(年1回のところ、年3回まで拡大)の継続実施。</p>	<p>・経営者の高齢化、事業継承への支援</p>		
	<p>[4-4-3] 起業支援・人材育成</p>	<p>産業振興課</p>	<p>・起業支援については、町のホームページ、くらしのガイド、移住サイトの他、商工会や両信金、日本政策金融公庫とも連携し、情報発信を強化した。 ・津別町創業支援計画に特別創業支援等事業を追加し、創業支援を強化した。 ・R3年度の起業等促進条例補助金交付実績 新設:3件、増設・改修:3件</p>		<p>・起業等振興促進条例がR4までの時限のため、継続検討。</p>	<p>【支援】 ・起業支援に関しては、補助金については役場担当部署、融資については金融機関とも連携しながら行っています。今後も様々な側面からサポートしていきたいです。</p>

	住民企画課	<p>・地域おこし協力隊員を対象として、自主研修等に係る旅費及び研修負担金を負担することで、人材育成を図った。 →参加研修等：延べ3回</p>	<p>・コロナ禍において、起業へのハードルが高くなっていることから、補助事業利用の促進は勿論のこと、隊員としての活動期間中から起業まで(起業後を含む)の一貫したフォローが求められる。 ・コロナ禍の影響で、地域おこし協力隊員が希望する研修への参加を許可できないという例もあり、スキル向上のために代替となるオンライン研修幹旋等の必要性を感じる。 ・起業だけでなく、事業承継についても推進したいが、推進の手法について悩んでいる。需要についても調査が必要。</p>	<p>・北海道つべつまちづくり株式会社と連携して地域おこし協力隊員へのフォローアップに取り組むことで、より密なフォローアップを検討していく。 ・町内外の地域おこし協力隊員同士の繋がりを作る工夫を行い、隊員同士の情報共有についても推進していきたい。 ・事業承継については行政だけでなく、商工会や金融機関等をはじめとする関係者と連携を図り、推進について模索していきたい。</p>	<p>【評価】 ・素晴らしい挑戦内容と感じます。頑張ってください</p>
--	-------	---	--	---	--

5 観光・交流「世界に発信できるつべつ・地域魅力づくり」～地域資源の価値向上と交流がさらなる魅力につながる強みを活かした観光のまち～

施策 5-1 観光地域づくりの推進「地域資源の価値を高める持続可能で戦略的な観光地域づくりの推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支 援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<p>○「○○といえば津別町」と知名度のある特産品や観光地があり、津別町産の物を食べたり、購入できる場所があります。</p> <p>○魅力発信人材やガイド、外国語対応可能な人材が育ち、全国・世界各国から観光客が訪れるようになっていいます。需要に合った宿泊施設が整備されています。</p> <p>○広域連携しながら道東の定番観光ルートに津別が入っており、多くの人が立ち寄るまちとなっています。</p> <p>○「稼ぐ力」を引出し、持続可能で地域資源の保全をしながら観光客を受け入れる観光振興体制が整っています。</p> <p>○エコツーリズムによる人的交流・観光が活発に行われています。</p>	[5-1-1] 観光プロフェッショナル人材による観光地域づくりに特化した組織の形成と推進	産業振興課	・観光協会の法人化。	・観光地域づくりの中核となる人材の不足。	・観光協会を中心とした、観光地域づくりの人材育成。 ・観光事業者の横の連携。	<p>【提案】 ・町のイベントだけでなく、もっと観光に注視できるような体制になったらいいかなと思います。</p> <p>【提案】 ・観光協会が主体となっているお祭りイベントについては町づくり会社にシフトしてはどうか。観光協会はお祭り運営ではなく“観光”についてしっかり考えるべきではないか。</p>
	[5-1-2] インバウンド対応の推進	産業振興課	・コロナの感染拡大により、インバウンドの受け入れなし。	・インバウンドに対応した案内看板等が未整備。	・多言語による、観光デジタルマップの作成。 ・インバウンドに対応した観光案内看板の作成検討。	
	[5-1-3] 持続可能な観光地域づくり	産業振興課	・観光協会の法人化により、協会の稼ぐ力を引き出す。	・観光地域づくりの中核となる人材の不足。	・エコツー協議会に向けた調査・検討 ・稼ぐ仕組みの醸成	<p>【提案】 ・津別だけでは厳しいので、オホーツクと連携して強化してほしい。</p> <p>【評価】 ・現時点で観光協会として収益化できる事業はないように思えるが、今後どのような運営や展開を考えているのか。</p>
	[5-1-4] 町民が実感できる地域の魅力づくりと魅力発信人材の育成	産業振興課	・自然体験プログラム体験料の助成、つべつ宿泊キャンペーンの助成、ランプの宿森つべつの町民入浴料の全額割引のを実施。 →実績：自然体験プログラム延72人、宿泊キャンペーン延528人、ランプの宿町民入浴料の全額割引延6,879人	・観光への関心度。	・R4年度も自然体験プログラム体験料の助成、つべつ宿泊キャンペーンの助成、ランプの宿町民入浴料の全額割引のを実施。	<p>【評価】 ・自然体験プログラムの助成は町民が体験＆知る良い機会だったと思います。現在実施してる自然体験プログラムの助成や、つべつ割は全国対象なので、移住定住HPでもPRしていきます。</p>
	[5-1-5] 広域連携の強化と観光インフラ整備の推進	産業振興課	・3町広域観光協議会でのトレイルルート整備事業の実施。 ・阿寒周国立公園広域観光協議会で、周遊ルートのモニターツアーを実施。旅行会社や雑誌社による記事掲載やツアー造成、インスタやYoutube発信を実施。	・町内観光施設の老朽化により、修繕費が高騰。	・ハード、ソフトを含めた全体的な改修計画の検討	<p>【提案】 美幌峠の施設が刷新され注目度が高い。津別峠展望施設においても多くの方が立ち寄るような場所へリニューアルできないものか。</p>

5 観光・交流「世界に発信できるつべつ・地域魅力づくり」～地域資源の価値向上と交流がさらなる魅力につながる強みを活かした観光のまち～

施策 5-2 地域交流の推進「人と人、地域と地域 つながりから多彩な魅力と価値が生まれるまちづくり」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<ul style="list-style-type: none"> 交流拠点等の整備(図書館、複合商業施設等)がなされ、人々の交流が活発に行われています。 	[5-2-1] 多世代交流や異業種間・職場間交流促進事業	住民企画課	【R4年度から】 ・「1-4-5 「津別町まちおこし大学ver.2.0」の実施」の検討に本取り組みの要素を盛り込んでいく。	-	-	
<ul style="list-style-type: none"> 南アルプス市、船橋市、台湾二水郷などの姉妹都市や、スポーツ合宿のつながりが継続発展し、全町民が親しみを有する交流が行われています。 スポーツや青年活動等、町内のそれぞれの人にあったさまざまな形で交流できる機会づくりが行われています。 人口減少に伴い、人不足から各団体の活動を廃止・縮小するのではなく、既存の価値観にとらわれず現状に合った新たな活動が行われています。 定住自立圏構想を活用した取組が積極的に行われています。 	[5-2-2] 姉妹都市やスポーツ合宿の来町者と町民との交流事業	総務課(姉妹都市)	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で姉妹都市との交流事業は実施できなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍での相互交流は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナの状況により事業を再開し、様々な分野で長く交流を続ける。 	<p>【評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> 町民レベルでは実感しないが、姉妹都市との交流結果として具体的にどのような成果があるのか教えてほしい。 <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現在オンラインが主流です。対面にこだわらず、別の方法で開催すべきかと・姉妹都市への意識が薄れると感じます
	[5-2-3] 定住自立圏構想による行政や各機関の連携や交流	住民企画課	<ul style="list-style-type: none"> 北見地域定住自立圏形成協定の中で協議していた、町内で発生する燃やすごみについては、令和3年4月より北見市への持ち込みが開始された。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、対面での会議開催ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 他分野においても、連携の可能性を模索していく。 	

6 行財政「持続可能な行政経営のまちづくり」～次世代に受け継ぐ健全な行政経営に取り組むまち～

施策 6-1 協働の推進「民間と行政が連携した行政運営とまちづくりの推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当 部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支 援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<ul style="list-style-type: none"> ○実施主体が中心となり行政は支援するスタイルができています。 ○自治会や町民全般もより高齢化するので、民間の活動に頼った行政運営も実施されています。 	[6-1-1] 官民間での人事交流の実施(人材育成と連携基盤の形成)	総務課	・北海道との人事交流は行っている。	・限られた人数の職員の中で、民間との人事交流までには至っていない。	・公益団体への職員派遣や定住自立圏域内での人事交流。	【提案】 ・人材は限られるが、流山や改革成功?ともいえる行政やICTの先進地地域へ研修など行ってみてはいかがでしょうか。
<ul style="list-style-type: none"> ○異業種、異企業、異集団が広範囲につながり連携して町の発展に貢献しています ○行政、各企業・団体の若い世代が集まり、意見交換できる環境が整っています。 ○働き方改革推進協議会などで行政、民間が課題共有をしています。 ○行政課題、企業課題、諸課題を官民で共有し協働・連携で解決することで「まち育て」をしています。 ○官民の間で人事交流、職員相互派遣が実施されています。 ○民間企業等による高齢者の見守りなどが小まめに行われています。 ○SDGs(持続可能な開発目標)が定着しています。 	[6-1-2] 自治会活動、行政活動などや協働事業の時代に即した在り方の研究検討	住民企画課	・自治会活動、行政活動や協働事業の在り方などの研究・検討するために意見交換などの活動を行うことができていないが、他市町村の状況、事例などの情報収集を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での3密回避の観点から、話し合う場を持つことが難しい。 ・高齢化により担い手不足が顕在化してきている。 	・コロナ対策を徹底した上で、自治会活動、官民一体の協働事業を研究・検討するための機会を設けるなどの支援を行っていく。	【評価】 ・自治会についてはそのあり方も含め見直す時期にきていると思います。本来自治で改善もしていくものだと思いますが、若者世帯への負担や、高齢者とのトラブルも伺ったりしていると、そのあり方や、仕組みを全体で考えていく必要があると感じています。 ・コロナとの共存を考え活動を実施すべきかと・・年単位で空いてしまうと必要性が薄れてしまうと感じます。 ・戸数減少や高齢化、自治会への参加率の低さから住民主体での自治会活動に限界がきている。時代に即した統合などの再編成が必要と感じる。 【提案】 ・子供会など休会もあり、自治体の改革は会費や人間関係において大変だと思うが再編を検討してほしい。

<p>[6-1-3] 関係人口の増加、移住促進事業(新たなプレイヤー(まちづくり活動人口)の増加)の強化</p>	<p>住民企画課</p>	<p>・道東エリアリノベーションプロジェクトのパイロット事業として立ち上げた起業支援型コワーキングスペース、地域融合型ゲストハウスにおいて、多世代交流、異業種交流が図られた。 →地域融合型ゲストハウス 延べ宿泊者数241名、多世代・異業種交流イベント22回(令和3年度) →起業支援型コワーキングスペース 動画生配信番組 2番組(つべらない話、THE井戸端会議) 番組発信がきっかけでまちづくり団体発足2団体(令和2年度)</p> <p>・10月に空家バンクに登録されている本町の空き家において、道東エリアリノベーションスピンオフ企画として空き家1件の丸ごとガレージセールを実施し、空き家という共通点で多世代、異業種の交流が生まれるきっかけを生み出した。 →参加者延べ約100名(令和3年度)</p>	<p>・コロナ禍での3密回避の観点から、多世代交流のハードルが非常に高くなっている。</p>	<p>・オンラインでの交流の機会も広げつつ、コロナ対策を徹底した上で対面での交流の企画も探っていく。</p>	<p>【評価】 ・新たなプレイヤー発掘の為、今年も色々な企画考え実施していければと思います。</p> <p>・コロナとの共存を考え活動を実施すべきかと..年単位で空いてしまうと必要性が薄れてしまうと感じます。</p> <p>・移住希望者は口を揃えて住む場所がないと話される。特質や町営住宅には制限が多いため住めず、空き家は老朽化が著しいためお金がかかりすぎて住めない。民間事業者としてもフォローしたいと思うが人助けする余裕はない。町としてどう考えているのか。</p>
--	--------------	---	--	--	--

6 行財政「持続可能な行政経営のまちづくり」～次世代に受け継ぐ健全な行政経営に取り組むまち～

施策 6-2 行財政「効率的・効果的な行政運営と安定的な財政基盤の確立」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部 署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支 援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<ul style="list-style-type: none"> AI(人口知能)、OCR(光学式文字読取装置)、RPA(ロボットによる業務自動化)を活用した事務の効率化が進んでペーパーレス化が定着しています。 柔軟に人を動かせる組織体制が確立されています。(労働力の機動的配分) 	<p>[6-2-1] ICT(情報通信技術)機器・技術の積極的な導入による業務効率化</p>	<p>総務課</p>	<p>コロナ対策臨時交付金で導入したノートPCを活用し例規審査会、主要事業ヒアなどペーパーレス会議の浸透・定着を進めている。 自治体DXに伴う行政サービスのオンライン手続化について対応を進めることとした。(R4年度中) 自治体DXに伴う共通化・標準化について対応を進めることとした。(R4～R7) 確定申告のAI-OCRについて、北海道自治体情報システム協議会にて検証完了。人力の確認作業に手間がかかり、費用対効果弱。完全なオートメーションには尚早との判断。</p>	<p>休暇届、時間外などの内部手続きについても電子化を進めていきたいと考えているが、決裁の流れについてより検討が必要である。</p>	<p>休暇届、時間外などの内部手続きの電子化について検討を進める。</p>	<p>【提案】 ・slackなどを活用して情報共有、民間サイドから見ると会議が被って片方に出れなかったりするので、そのあたりの情報も共有してほしい。</p>
<ul style="list-style-type: none"> 電子化等により文書管理の徹底が済んでいます。(集中的に移行作業を実施) 人口減少や予算規模が縮小しても持続可能な行政運営体制が確立されています。 ICT(情報通信技術)の有効活用、文書のデータベース化の徹底が済んでいます。 行政運営ノウハウ集、業務マニュアル(手順書)の完備による行政運営が効率化しています。 行政運営での迅速な意思決定と適時情報共有化ができています。 ICT(情報通信技術)等の活用により事務作業が効率化・自動化されています。 柔軟に職員の配置を動かせる仕組みができています。 北見地域定住自立圏が締結され連 	<p>[6-2-2] 働き方改革を含めた行政組織改革・運営</p>	<p>総務課</p>	<p>業務の視覚化を目的として、各担当と協力しながら全業務の業務フローを共通様式で図式化・整備する取り組みを行った。 R2から開始したファイリングの浸透・定着を目的とした研修会の実施とファイリングマネージャーに指揮・指導の実施。</p>	<p>業務多忙のため業務フローの図式化への取り組みが進んでいない担当へのフォローアップについて。 各担当によりファイリングの運用手法にばらつきが生じている。</p>	<p>図式化された業務フローを有用に活用していく手法を検討していく。 予算計上される事業について、全体的なマクロ視点で協議・検討する組織の検討。</p>	

6 行財政「持続可能な行政経営のまちづくり」～次世代に受け継ぐ健全な行政経営に取り組むまち～

施策 6-3 情報発信の強化「情報発信力の強化と戦略的シティプロモーション施策の推進」

10年後の目指す姿 (Goal)	主な取り組み (Project)	担当部署	内部評価 挑戦したこと (Challenge) ※定量的な実績を記載する。	挑戦の中で困っていること (Problem)	次に挑戦すること (Next Challenge)	外部評価 挑戦に対する評価、激励、支援、質問 (Assesment, Encourage Support, Question)
<ul style="list-style-type: none"> ◎SNS等を活用した次世代型の情報発信(双方向即時連携)が整備されています。 ◎プロフェッショナルな統一性のある発信によるプロモーション展開が行われています。 ◎子育て情報が整理されているプラットフォームが整備されています。 ◎ブランドメッセージの確立によるシティプロモーションが行われています。 ◎必要な人が必要なときに必要な情報を受け取れる仕組みが整っています。 ◎デジタルサイネージが町内に数多く設置されています。 	<p>[6-3-1] ICT(情報通信技術)を活用したコミュニケーションネットワーク整備(次世代ネットワーク)</p>	<p>総務課 住民企画課</p>	<p>・ささえネット@つべつのLINEでの情報配信を実施した。</p> <p>・広報紙などで定期的にアプリ「マチイロ」を周知し、より多くの住民への情報発信の強化を行った。また、「ささえねっと@つべつ」LINE版で、町のお知らせの配信を行い、スマホ世代への情報発信の強化を行った。 →令和3年度マチイロ登録者184人</p>	<p>・登録者への情報配信で、不特定多数に対する発信手段がない。</p> <p>・現在、広報つべつにてアプリの周知を行っているが、定着するまでに時間がかかると思われる。 現在、広報つべつにてささえねっと@つべつのLINE版の周知を行っているが、定着するまでに時間がかかると思われる。</p>	<p>・ささえネットを常時周知して、登録者数を増やし、素早い情報発信・伝達をする。</p> <p>・SNS等の活用や、catalog pocket(カタポケ)などの情報配信ツールの活用を増やし、ネットワークを利用した情報発信を強化し、津別の情報をより素早く伝える方法を検討する。</p>	<p>【支援】 ・マチイロ、PRしていきます。</p> <p>【提案】 ・情報配信場所の統一を図るのはどうでしょうか？これさえ見れば大丈夫なもの(広報つべつの充実等)。また、広報つべつで継続的にこれらの特集を続けてみてはどうですか？</p>
	<p>[6-3-2] プロモーション媒体イノベーション事業及び広報人材育成事業</p>	<p>住民企画課</p>	<p>・広報紙編集ソフトでの広報紙作成を行い、よりわかりやすい、見やすい紙面の作成を行った。また、写真の掲載サイズを1.5倍拡大し、伝わる広報紙の作成を行った。ホームページ全体のリニューアルの検討を行い、閲覧者が見やすいホームページの更新準備を行った。 →住民満足度調査「行政の情報発信等」の「満足」、「おおむね満足」の割合73.3%(令和3年度)</p>	<p>・各課によるホームページの修正を行っているが、それぞれの課や係で編集を行うため、ホームページ全体の統一化が図れていない。 また、新型コロナウイルスのため、東京で開催される広報作成の新ツールのセミナーに参加できずにいる。</p>	<p>・R4年度にホームページのリニューアルを行う。 ・広報紙でユニバーサルデザインの導入や、ホームページの編集方法の統一化などを検討する。</p>	<p>【評価】 ・広報がカラーになったり、補助金のサッシもすごくわかりやすくなったと思います。チャレンジ頑張ってください。</p> <p>・役場HPリニューアル、すごく楽しみです！！</p> <p>・HPは見にくい感があります。TOPページは見やすく活気があるように感じます。他の詳細ページは欲しい情報が得られない事が多々ありました。</p> <p>・ホームページが見ずらく必要な情報を検索しにくい。広報は見やすくなった反面、折りこみの量が広報と同じくらい多くなり結果的に見ずらい。一冊にまとめてほしい。</p>